

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	解剖学 I	担当教官名	北野 富美雄
対象学生	第 1 学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	消化器 循環器 腎泌尿器 呼吸器 の構造と機能		
授業の概要 及び到達目標	<p>1. 授業の概要 解剖学 I においては消化器系、循環器系、腎臓・泌尿器系、呼吸器系の解剖、機能について講義する。</p> <p>2. 到達目的 解剖学は医学の基礎であり、幅広い知識と基礎課程の習得によって、次のステップアップである専門課程が理解できる。他の医療関係者と緊密な連携を図り、チームワークの一員としてチーム医療に参画できる。</p> <p>3. 実務者経験:25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務。臨床薬剤師(入院患者対象 内科 外科 脳神経外科 整形外科病棟)に従事。院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用の報告 情報提供。他職種(医師 看護師 視能訓練士 言語聴覚士 作業療法士)研修会での薬品情報(新薬 副作用 禁忌 注意点 など)提供。</p>		
講義計画・内容	<p>1. 消化器 I 咽頭、食道、胃、十二指腸の機能と構造</p> <p>2. 消化器 II 小腸、大腸(結腸と直腸)、腹膜の機能と構造</p> <p>3. 消化器 III 肝臓、膵臓、胆嚢の機能と構造</p> <p>4. 1~3回の消化器のまとめ</p> <p>5. 循環器 I 心臓の機能と構造、刺激伝導系、冠状動脈、弁(房室 動脈)</p> <p>6. 循環器 II 動脈、静脈、毛細血管、血圧について</p> <p>7. 循環器 III リンパ系、リンパ管、リンパ節、胸腺、脾臓など機能と構造</p> <p>8. 5~7回の循環器のまとめ</p> <p>9. 腎・泌尿器 I 腎臓 糸球体 尿細管(近位 遠位 ヘンレ)、機能と構造</p> <p>10. 腎・泌尿器 II 膀胱、尿管 排尿の仕組みの機能と構造</p> <p>11. 呼吸器 I 咽頭、喉頭、気管、気管支、肺胞 胸膜の機能と構造</p> <p>12. 呼吸器 II 肺構造、肺活量、肺活量、残気量、呼気量、換気量について</p> <p>13. 解剖 I のまとめ① 9~12回 腎・泌尿器、呼吸器</p> <p>14. 解剖 I のまとめ② 1~ 8回 消化器、循環器</p> <p>15. 解剖 I 本試験 本試験実施と解答・解説</p>		
準備学習	講義の前後につながりがあるので前回の復習と、次回するところは予習してほしい		
教科書・教材等	からだの地図帳(講談社)、解剖学ハンドブック(ナツメ社) 入門人体解剖学 第5版 (南江堂)		
授業の形式 教育機器の活用	講義と問題演習		
成績評価の方法	本試験で60点以上を合格とする。59点以下で再試験を行う		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	授業に関して学生に期待すること わからない点があればわかるまで質問してほしい。講義中は私語をしない、勉強に集中してほしい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基準)	専門分野
授業科目名	関係法規・医学概論	担当教官名	北野 富美雄
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必須	授業回数	8回
授業のキーワード	視能訓練士法 医療法 臓器移植法 感染症法 予防接種法 母子保健法 労働基準法		
授業の概要 及び到達目標	<p>1. 授業の概要 視能訓練士法 感染症法 母子・学校保健 医療安全 病理学などを講義する。</p> <p>2. 到達目的 医療従事者の法的義務 医療安全 国民医療費 医療保険 母子・学校保健などが理解できる。医療従事者としての責任ある患者中心の行動ができる。視能訓練士の業務に役立つことができる。日常業務において、他の職種と緊密な連係をはかり、チーム医療に参画できる。国家試験の合格にも寄与できる。</p> <p>3. 実務者経験:25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務。臨床薬剤師(入院患者対象 内科 外科 脳神経外科 整形外科病棟)に従事。院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用の報告 情報提供 他職種(医師 看護師 視能訓練士 言語聴覚士 作業療法士)勉強会での薬品情報提供。</p>		
講義計画・内容	<p>視能訓練士の国家試験に基づいて、講義は関係法規を4コマ、医学概論を3コマ、本試験実施、解答 解説を1コマとする</p> <p>関係法規</p> <p>1 関係法規①—医事法規、視能訓練士法</p> <p>2 関係法規②—医療法、臓器移植法 インフォームドコンセント 患者権利 医の倫理</p> <p>3. 関係法規③—予防衛生法 感染症法、予防接種法 学校保健安全法 学校感染症</p> <p>4. 関係法規④—母子保健法 男女雇用機会均等法 労働基準法 育児介護休業法</p> <p>医学概論</p> <p>5. 医学概論①—医療安全対策、医療事故、CPR(心肺蘇生法)インシデント、アクシデント</p> <p>6. 医学概論②—衛生統計 疾病統計 疾病予防 成人保健 我が国の死因順位</p> <p>7. 医学概論③—基礎病理 循環障害 病変(進行性 退行性) 腫瘍 悪性 良性</p> <p>8. 本試験の実施と解説</p>		
準備学習	講義の前後につながりがあるので前回の復習と、次回するところは予習してほしい		
教科書・教材等	視能学 第3版 文光堂 2022年		
授業の形式 教育機器の活用	講義と問題演習 視能訓練士 国家試験過去問題		
成績評価の方法	本試験で60点以上を合格とする。59点以下で再試験を行う		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	授業に関して学生に期待すること わからない点があればわかるまで質問してほしい。講義は、勉強に集中してほしい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	教育学	担 当 教 官 名	古賀 武彦
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	「コミュニケーション」・・・教育の歴史と社会的背景を学び、自分と社会との関わりを考える。		
授業の概要 及び到達目標	「教育とは何か」、人間の成長・社会の発展に「なぜ教育が必要か」を考える。 講義やグループワークを通して学習習慣とコミュニケーション能力を身につけ、互いに共生していることの意義を尊重して行動できる。		
講義計画・内容	<p>1回目:「教育とは何か」を考える・・・目的・役割・必要性 2回目:「教育とは何か」を考える・・・目標・意義・適時性 3回目:「教育思想史①」・・・古代の世界観→ギリシャ・ローマの教育思想 4回目:「教育思想史②」・・・中世の世界観→ルネサンスと教育思想 5回目:「教育思想史③」・・・近現代の世界観→人権思想と学校教育 6回目:「自由と責任」「権利と義務」について考える 7回目:「道德教育」・・・新聞“読者投稿文”を基に考える 8回目:「言語と人格形成」について考える 9回目:「自分とは何か」について考える 10回目:「自由と自律」「自由と平等」について考える 11回目:「学ぶこと」「知ること」「教えること」について考える 12回目:「教育とマスメディア」について・・・メディアリテラシーを軸に考える 13回目:「教育の諸問題」について・・・高度成長期～現代社会の問題点を考える 14回目:「生涯学習」について・・・主体的に学ぶということの意義を考える 15回目:※本試験実施(試験60分+解答解説30分)・・・評価観点・採点基準通知</p>		
準備学習	ワークシートや提示した資料を中心に復習に重点を置く。		
教科書・教材等	教科書は使用しない。教材としてワークシート・資料等を適宜配付する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式(適宜質疑応答を交えて発問を促し、理解の深化を図る。)		
成績評価の方法	定期試験70% 平常点30%(出席率・課題提出率・試験結果等を基に総合的に評価する)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>原則、毎回「課題」を指示する。※課題の提出率を重視する。 適時、理解度の「確認テスト」を実施する。 ☆自分の考えを整理し、文章にして簡潔に表現できるようになろう！</p> <p>■授業中の私語、携帯電話、中途入退室、課題提出ルールへの無視は、消極的な学習姿勢の表れと判断し、評価対象とするので、積極的な取り組みを期待する。 ※次の事項についてのルールを初回授業時に伝える。 ・授業中の姿勢に関する留意点/時間どおりに授業を始め、時間どおりに終わる方針 ・資料配布のルール/課題提出のルール/成績評価の観点についての説明 等</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分	基礎分野
授業科目名	数学	担当教官名	山部 長兵衛
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	数と式, 1次方程式, 三角比, データの分析, 統計学基礎		
授業の概要 及び到達目標	<p>(前半の授業内容)</p> <p>1) 数と式 (正の数・負の数の四則計算, 文字を使った式, 整式の加法・減法, 整式の乗法, 乗法公式, 因数分解)の計算ができる。</p> <p>2) 根号を含む式の計算ができる。1次方程式の基礎が理解できる。</p> <p>3) 三角比, 三角比の相互関係, 三角比の拡張に関する基礎的な計算ができる。</p> <p>4) 指数関数の基礎 (指数法則, 累乗根, 指数の拡張, 指数関数とそのグラフなどの性質)が理解できる。</p> <p>5) 対数の基礎が理解できる。</p> <p>(後半の授業内容)</p> <p>6) 統計学の基礎 (平均, 度数分布, 分散と標準偏差, 信頼区間, カイ2乗検定, t 検定などの基礎)が理解できる。</p>		
講義計画・内容	<p>(1)(2) はじめに。数と式 (正の数・負の数の計算, 文字を使った式, 整式の加法・減法, 整式の乗法, 乗法公式, 因数分解など)(授業2回分)</p> <p>(3) 根号を含む式の計算, 1次方程式</p> <p>(4) 三角比, 三角比の相互関係, 三角比の拡張</p> <p>(5) 指数関数 (i) 指数法則, (ii) 累乗根, (iii) 指数の拡張, (iv) 指数関数とそのグラフ</p> <p>(6) 対数関数の性質 ((i) 対数 (ii) 対数の性質 (iii) 対数関数とそのグラフ)</p> <p>(7) 総合演習</p> <p>(8) 中間試験 ((1)-(7)の内容に関するもの)</p> <p>(9) これより統計学の内容。(i) 平均 (ii) 度数分布 (iii) 分散と標準偏差</p> <p>(10) 信頼区間</p> <p>(11) カイ2乗検定</p> <p>(12) t検定 (対応無し)</p> <p>(13) t検定 (対応あり)</p> <p>(14) 第9回からの後半部の範囲に関する まとめ・演習</p> <p>(15) 第9回から14回までの範囲(統計学)に対する期末試験・解説</p>		
準備学習	中学の数学, 高校数学IAレベルの復習をよくすること。		
教科書・教材等	教材は(前半の授業)は原則毎回プリント資料を用意する。 (後半の授業)は, 教科書『統計学がわかる』(技術評論社)とプリント資料を併用する。		
授業の形式 教育機器の活用	対面授業(状況に応じてPCとプロジェクター使用, またはオンライン授業)		
成績評価の方法	中間試験・期末試験および平常点(理解度チェック・課題・演習, 授業への集中度等)の総計で総合評価する。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	授業への集中力を高める。授業の復習に努めてほしい。質問は授業中, 授業外いつでも歓迎します。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	生理光学 I	担当教官名	中島 かおり
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	眼球光学系、屈折異常、屈折矯正、レンズ		
授業の概要 及び到達目標	<p>生理光学 I では、眼球光学系の特徴、屈折異常およびその矯正原理、屈折矯正に必要なレンズの知識について学習する。</p> <p>本講義では以下を到達目標として設定する。 ①正視、近視、遠視、乱視といった各屈折状態の定義を説明できる。 ②屈折状態をレンズ式、スコア図、スタームのコノイドで表すことができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 眼球光学系の特徴、屈折の光学(1) 2. 屈折の光学(2) 屈折異常総論 3. 屈折の光学(3) 屈折異常総論、屈折矯正の原理 4. レンズの表し方(1) レンズ式、スコア図 5. レンズの表し方(2) スコア図、スタームのコノイド 6. レンズの表し方(3) スタームのコノイド 7. まとめ 8. 本試験、解説 		
準備学習	物理の復習をしておくこと。		
教科書・教材等	視能学【第3版】，屈折異常とその矯正 第7版 ，生理光学ドリル I，プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パワーポイント使用)		
成績評価の方法	本試験 80点 + 小テスト 20点		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>生理光学 I では、屈折検査および屈折矯正の礎となる知識を身につけてもらいます。</p> <p>苦手意識を持ちがちな分野ではありますが、完全に理解する必要があるため、諦めずに学習に取り組んでください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	基礎視能矯正学(両眼視)	担 当 教 官 名	長崎 哲也
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	正常両眼視機能とその異常、輻湊・開散・AC/A比		
授業の概要 及び到達目標	<p>両眼視に関する内容は、斜視や弱視を学ぶ上で基礎となる重要な部分である。一つ一つの内容を確実に理解し、知識として修得できることを目標とする。本講義では、以下の内容を到達目標として講義を進める。</p> <p>①両眼視機能の仕組みについて、図示し説明ができる ②両眼視機能を知識としてだけでなく実体験として理解を深めることができる ③輻湊・開散・AC/A比について説明できる ④輻湊・開散・AC/A比の検査法を知り、輻湊角やAC/A比を求めることができる</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 両眼視の定義、重複眼 2. 正常網膜対応 3. Panumの融像感覚圏、生理的複視、 4. 深径覚、両眼視の発達、形態覚 5. 外側膝状体と視覚の経路、両眼視機能の成立条件 6. 両眼視機能(同時視、融像、立体視) 7. 両眼視機能の異常 8. 調和性異常対応 9. 輻湊、開散の定義、神経・発達 10. 輻湊の種類・測定法・計算 11. 輻湊の検査 12. 相対輻湊・相対開、相対調節 13. 輻湊、開散の障害、AC/A比 14. AC/A比 gradient法、heterophoria法、計算 15. 本試験・解説 		
準備学習	随時復習テストを行ってから講義を始めます。前回の授業までは復習をして臨んでください。		
教科書・教材等	視能学第2版 視能矯正学第3版 目でみる斜視検査 生理光学ドリルⅡ		
授業の形式 教育機器の活用	講義(スライド) プリント 復習テスト 実習(プリズム・大型弱視鏡)		
成績評価の方法	小テスト20%・本試験80%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	講義をしっかりと聞き分らないことは確認するようにしましょう。また小テスト講義前に行います。小テストも成績に含みますので復習をしてから臨んでください。本講義の内容は、暗記ではなく「理解すること」が大事です。講義では実体験を入れてイメージしながら理解できるようにしていきます。今後学ぶ分野の基礎となる内容ですので、しっかり学習しましょう。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	眼球運動	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	1年生	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	8回
授業のキーワード	眼筋		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>基礎視能矯正学(眼球運動)では、あらゆる眼球運動異常を理解するために必須となる外眼筋の構造と作用、眼球運動の基礎的な知識について学習する。</p> <p>本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。 ①外眼筋の単独作用が理解できる。 ②単眼運動・両眼共同運動と重要な法則について理解できる。 ③共同筋と拮抗筋について理解できる。 ④外眼筋の神経支配を理解できる。</p>		
授業の概要	<p>視能学を主に使用し、座学にて講義を行う。 パワーポイントを使用し、講義を行う。 適宜、自分や他者と検討し合う時間を設け、気づきをしてもらう。</p> <p>① 外眼筋の単独作用 ② 両眼むき運動 ③ 眼球運動と脳神経 ④ 眼球模型作製 ⑤ 視能矯正の枠組み ⑥ 固視微動 ⑦ 眼筋と電位 ⑧ 本試験・解説</p>		
授業内容のレベル	国試合格を第一目標とする		
教科書・教材等	視能学第2版、視能矯正学改訂第3版、眼科検査ガイド第2版		
授業の形式、視聴覚機器の活用	座学・パワーポイント		
成績評価の方法	本試験(100点)		
担当教官から			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	生物学I	担 当 教 官 名	都留 浩子
対象学生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	細胞 遺伝子 タンパク質 ゲノム 染色体 遺伝		
授業の概要 及び到達目標	<p>この授業では、前期「生物学I」、後期「生物学II」を通して、生物学の中でも特に、生命科学分野について学ぶ。この分野は医学を学ぶ者には不可欠の知識であり、可能な限り広く深く理解することが望ましい。前期の生物学Iでは、生命科学の基礎である細胞とゲノム・遺伝を対象とする。それらを理解するため、生体を構成する物質についても学ぶ。また簡単であるが、最先端のバイオテクノロジーについても触れる予定である。できるだけ発展の経緯や最先端の話題に触れて、流れを理解できるようにしたいと考えている。</p> <p>到達目標は以下の通り。 細胞・ゲノムなど生命科学の基本知識を理解し、説明できる。 生体に関わる分子についての化学的な知識を理解し、説明できる。 遺伝のしくみを理解し、遺伝に関する諸現象を説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・1章生物学の基礎 2. 3章生物を構成する物質①原子・分子・イオン・水の性質 3. 3章生物を構成する物質②有機物・栄養素・糖質・脂質 4. 3章生物を構成する物質③アミノ酸・タンパク質 5. 2章細胞①細胞の基本構造・細胞進化・生体膜 6. 2章細胞②オルガネラの構造と機能 7. 4章栄養と代謝①物質代謝:代謝の概念・消化と吸収・酵素 8. 4章栄養と代謝②エネルギー代謝:ATP・エネルギー合成 9. 5・6章遺伝子と遺伝①核酸・DNA・RNA・遺伝子 10. 5・6章遺伝子と遺伝②遺伝子発現・転写調節・突然変異 11. 5・6章遺伝子と遺伝③ゲノム・染色体・性決定 12. 5・6章遺伝子と遺伝④メンデル遺伝(常染色体遺伝・ABO式血液型) 13. 5・6章遺伝子と遺伝⑤伴性遺伝・遺伝病 14. まとめ+バイオテクノロジープリント学習 15. 試験・解説 		
準備学習	<p>事前にテキストを読むなどの予習を行うこと。また授業終了後は丁寧な復習を行うこと。復習の成果については、次回授業の始めに小テストを行い、確認する。</p>		
教科書・教材等	『医療・看護系のための生物学 改訂版』 田村隆明著 裳華房		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	本試験80%、小テスト及び平常点の評価20%とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>生命科学では、概念をきちんと理解することが大切です。板書をノートに写すだけでなく、書いた内容がもれなく理解できているようにしましょう。わからないところがあれば、どんどん質問してください。また、ノートだけの学習で終わらず、教科書も読み慣れて、学術用語や特有の言い回しなどにもなじむようにしましょう。高校生物の内容と重なるところも多々ありますので、難しく感じるときは、高校生物の参考書などに戻ってみてください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視覚生理学 I	担当教官名	石阪 ひとみ
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	視力 色覚		
授業の概要 及び到達目標	<p>視覚生理学は(形態覚(視力)・色覚・光覚・視野)は視覚を知る上で極めて重要な分野であり、視能訓練士として習得することは必須である。 視覚生理学 I では主に形態覚・色覚・の基礎知識をつけ、理論を理解し、検査に結び付けられるよう講義を進める。</p> <p>到達目標 ①形態覚を理解し、理論に基づいて視力検査の方法が理解できる。 ②色覚を理解し、理論に基づいて色覚検査の方法が理解できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形態覚とは 2. 視覚の出し方 3. 視力検査法、記載法(裸眼) 4. PD測定法、記載法 5. 字ひとつ視力、指数弁～光覚、記載法 6. 視力の種類 7. 乳幼児の視力検査 8. 視力に影響する因子 9. ランドルト環の計算 10. 距離が変わった場合の視力算出法 11. 色覚とは、種類 12. 色覚検査 13. 色覚遺伝 14. まとめ 15. 前期本試験・解説 		
準備学習	毎回前回授業内容から小テストを出題するので、復習を必ず行うこと。計算が苦手な学生は、計算ミスがないように計算力を身につけておく。		
教科書・教材等	視能学 視能矯正学 理解を深めよう視力検査屈折検査 検査ガイド 生理光学ドリル		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プリント		
成績評価の方法	本試験 80% 小テスト 20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	視力検査・色覚検査は臨床で行う機会も多く、形態覚や色覚の知識は欠かせません。 本講義では、なぜそうなるのかを皆さんにお伝えし興味を持ってもらえるような授業にしたいと思っています。臨床につながる大事な内容ですので、積極的に取り組んでください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	基礎視覚障害学	担当教官名	中島 かおり
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	視覚障害、ロービジョン、手引き、ガイドヘルパー		
授業の概要 及び到達目標	<p>視覚情報に問題が生じれば、日常生活はたちまち困難に陥ると容易に想像できる。高齢化に伴い視覚障害を有する患者は増えており、視能訓練士として「見えない」「見えにくい」患者との接し方を学ぶことは非常に大事なことである。</p> <p>本講義では、ガイドヘルパーの資格取得を目標に、講義や実習を通して患者の「見えにくさ」について理解を深め、適切な接し方や情報提供ができるよう学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>① 眼疾病と視覚障害、障害者の心理、障害者福祉サービスについて理解し、説明できる。</p> <p>② 視能訓練士として患者および家族・付き添いの方に役立つ情報の提供ができる。</p> <p>③ 視覚障害者に対して適切な手引き(ガイド)歩行ができる。</p>		
講義計画・内容	<p>1. オリエンテーション・障害者の心理・障害者福祉サービス</p> <p>2. 同行援護の制度と従事者の業務</p> <p>3-4. 代筆代読の基礎知識</p> <p>5. 障害・疾病の理解</p> <p>6. 情報支援・情報提供①・場面別基礎技能①</p> <p>7. 情報支援・情報提供②</p> <p>8. 同行援護の基礎知識</p> <p>9-11. 基本技能</p> <p>12-15. 応用技能・閉講式</p>		
準備学習	眼疾患やそれに伴う見え方について予習復習しておくこと		
教科書・教材等	<p><参考図書></p> <p>新しいロービジョンケア / 山本 修一(編集),加藤 聡(編集),新井 三樹(編集)</p>		
授業の形式 教育機器の活用	講義、実習		
成績評価の方法	出席・参加・取り組む姿勢の総合評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>問診、検査、ロービジョンケアと視能訓練士が患者さんに関わる機会は多く、接し方が検査結果や患者さんの精神面、生活面に大きく影響する場合があります。</p> <p>視覚障害者手帳取得に該当していなくても、見え方により不自由さを感じている患者さんは少なくありません。様々な疑似体験や講義により疾患や視覚障害者への理解を深め、ひとりひとりの患者さんに合わせて適切なサポートができる力を養ってください。</p> <p>患者さんやご家族の役に立てるアンテナを持ち、QOLの向上に貢献できる視能訓練士を目指しましょう。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視器の解剖生理病理学 I	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	1年生	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	15回
授業のキーワード	眼筋		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>本科目では、眼球とその付属器、血管系や働き、仕組みについて、その構造と機能を学習する。これらの正常な構造と機能を知らなければ、病態を理解することはできない。視能訓練士として修得すべき様々な知識の基礎となるものです。</p> <p>本講義では、視器の構造と機能を理解し説明できることを到達目標とし、視器の解剖生理病理学Ⅱに繋げる。</p>		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ①眼球概略 ②角膜 ③強膜・水晶体 ④ぶどう膜 ⑤⑥網膜 ⑦房水・眼圧 ⑧中間試験 ⑨視神経・視路 ⑩外眼筋 ⑪血管 ⑫⑬結膜・涙器・涙液 ⑭外眼部・眼窩 ⑮期末試験・解説 		
授業内容のレベル	国試合格を第一目標とする		
教科書・教材等	視能学第2版、視能矯正学改訂第3版、眼科検査ガイド第2版		
授業の形式、視聴覚機器の活用	座学・パワーポイント		
成績評価の方法	中間試験(50点)・本試験(50点)		
担当教官から	<p>学習する内容は、視能訓練士に必要な知識の基礎となるものです。しっかり理解することで、検査や疾患の病態を理解することに繋がります。焦らず一つ一つを確実に覚えていきましょう。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	総合演習 I	担当教官名	中島 かおり
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	グループワーク、実習、行事参加		
授業の概要 及び到達目標	<p>臨地実習で必要なコミュニケーション能力の向上を目的に、学内行事やグループワークに取り組む。また、1年生のうちに理解しておく必要のある屈折矯正を中心に、総合的な実技指導、演習を行う。</p> <p>到達目標 ①コミュニケーション力の向上 ②ホスピタリティ精神の構築 ③理論に基づく検査技術の向上</p>		
講義計画・内容	<p>1. プロの職業人について 2. 3年生学内実習の被検者体験 3. 入学式 4. オリエンテーション 5-7. 医健祭準備 8-9. 医健祭 10. 見学実習の報告会見学 11-12. スポーツ大会 13-15. 実技指導・演習</p>		
準備学習	グループでの協力体制作り、屈折矯正の復習など		
教科書・教材等	なし		
授業の形式 教育機器の活用	講義、実習		
成績評価の方法	レポート提出・出席・参加・取り組む姿勢の総合評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	個人ではなく、数名およびクラスで取り組む内容が多くなっています。臨地実習で必要となる技術や能力を培うための授業ですので、積極的に取り組んでください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	生理光学演習 I	担当教官名	中島 かおり
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	23回
授業のキーワード	オートレフケラトメータ、非接触眼圧計、レンズメータ、球面度数矯正、乱視表		
授業の概要 及び到達目標	<p>生理光学演習 I では、臨床において必須となる他覚的屈折検査、自覚的屈折検査、眼鏡度数を測定する機器の理論および実技について学習する。</p> <p>本講義では以下を到達目標として設定する。</p> <p>①オートレフケラトメータの測定ができる。 ②非接触眼圧計の測定ができる。 ③マニュアル式レンズメータを用いて単焦点レンズの度数測定ができる。 ④乱視表を用いた自覚的屈折値の測定ができる。</p>		
講義計画・内容	1-2. オリエンテーション、ARK(1) 3-4. ARK(2)、NCT(1) 5-6. NCT(2)、ARK・NCT実技 7-8. 球面度数矯正(1) 9-10. 球面度数矯正(2) 11-12. 球面度数矯正(3) 13-14. 前半まとめ 15. レンズメータ(1) 16. レンズメータ(2) 17. 乱視表(1) 18. 乱視表(2) 19. 乱視表(3) 20. 乱視表(4) 21. 乱視表(5) 22. 実技試験 23. まとめ		
準備学習	講義で学んだ実技について、空き時間などを用いて自主的に復習すること。		
教科書・教材等	視能学 第3版、理解を深めよう視力検査 屈折検査、眼科検査ガイド 第3版		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パワーポイント使用)、実習(実習室にて機器を用いて各検査の実技)		
成績評価の方法	出席点 50点, 課題点 40点, 実技試験 10点		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	各検査を確実に習得できるよう、空き時間を利用してたくさん練習しましょう。練習すればするほど、技術も知識も向上します。わからないことをわからないままにせず、積極的に質問してください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視能検査演習 I	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	1年生	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	23回
授業のキーワード	正確・注視		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>斜視、眼球運動、両眼視機能の理論と実際を学び、状態や検査について説明できる。疾患や状態に応じて、適切な検査を選択し適切な方法で良質な結果が得られるようになる。</p> <p>斜視、弱視、眼球運動、両眼視機能の理論と実際を基に、実習し検査できるようになる。</p> <p>検査について明確に説明ができる。</p> <p>主訴から必要な検査を選択し、実践することができる。</p> <p>なぜその検査をするのか、しっかりとした考えのもとに検査を選択し遂行することができる。</p>		
授業の概要	<p>年間を通して、実際の臨床で行われる検査について学生間で実習し、知識や技術を習得し臨床の現場で実践できるようになるための基礎を身に付ける。</p> <p>正常であっても様々な違いを実感し、対応できるよう経験を積む。</p> <p>問題点を考え、そこから原因と理由を考察し、改善するために必要な検査を目的をもって選択し遂行していく。</p> <p>①眼球の可動域 ⑪プリズムについて ⑳想定しての検査 ②眼球運動検査 ⑫眼位検査(定量) ㉑想定しての検査 ③Hirschberg method ⑬眼位検査(定量) ㉒想定しての検査 ④krimsky method ⑭眼位検査(定量) ㉓想定しての検査 ⑤-⑥眼位検査(遮蔽試験) ⑮眼位検査(定量) ⑦眼位検査(遮蔽試験) ⑯正切尺 ⑧眼位検査(遮蔽試験) ⑰正切尺と眼位検査(定量) ⑨眼位検査(遮蔽試験) ⑱立体視 ⑩眼位検査(遮蔽試験) ⑲立体視</p>		
授業内容のレベル			
教科書・教材等	視能学第2版、視能矯正学改訂第3版、眼科検査ガイド第2版		
授業の形式、視聴覚機器の活用	パワーポイント		
成績評価の方法	課題提出・出席点(課題未提出は1課題(-1点)、欠席は1コマ(-2点))		
担当教官から			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	斜視検査 I	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	1年生	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	15回
授業のキーワード	斜視、斜位、正位		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>眼球運動や斜視、それらに関する基礎的な知識および定義や分類について習得する。 斜視、眼球運動、両眼視機能の理論を学び、理解した上で適切な説明できる。 理論を学び自ら実践・確認することで、理解度及び学びの質が向上する。</p>		
授業の概要	<p>視能学を主に使用し、座学にて講義を行う。 パワーポイントを使用し、講義を行う。 適宜、自分や他者と検討し合う時間を設け、気づきをしてもらう。</p> <p>①眼位の定義 ⑩斜視の診断 ②眼位の概論 ⑪斜視の診断 ③斜視・斜位の種類 ⑫斜視の診断 ④軸・角度の名称 ⑬回旋 ⑤輻輳の種類 ⑭立体視の計算 ⑥斜視の定義 ⑮まとめ ⑦斜視の病因論 ※本試験 ⑧斜視の分類 ⑨斜視の分類 ※中間試験</p>		
授業内容のレベル	国試合格を第一目標とする		
教科書・教材等	視能学第2版、視能矯正学改訂第3版、眼科検査ガイド第2版		
授業の形式、視聴覚機器の活用	座学・パワーポイント		
成績評価の方法	筆記(中間50点+本試験50点)		
担当教官から			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視覚生理学演習 I	担当教官名	石阪 ひとみ
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必須	授業回数	23回
授業のキーワード	視力検査 色覚検査 視野検査		
授業の概要 及び到達目標	<p>視覚生理Ⅰ・Ⅱで学習した各種視力検査・色覚検査・視野検査の理論に基づいて、実践的な検査がスムーズに行えるようになるための実技指導を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>①裸眼視力検査（遠。近） ②色覚検査（色覚検査表 パネルD-15 100hue アノマロスコープ） ③視野検査（HFA GP Octopus 中心暗点計） ④アムスラーチャート Mチャート</p> <p>以上①～④の検査方法を理解し、検査を行うことができる。また評価ができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 裸眼視力測定(指導) 2. 裸眼視力測定(課題)、PD測定(指導) 3. 裸眼・PD(課題)、字一つ以下(指導) 4. 1～3の課題、近見視力(指導) 5. 1～4の課題、乳幼児の視力(指導) 6-8. 1～5までの課題 計算課題 9. 1～5までの課題 計算課題 10. 色覚検査(指導) 11. 色覚検査(課題) 12. 輝度調整(指導) 13. 輝度調整(課題)、HFA入力、 拳上、アイパッチ(指導) 14. 13の実習 15. HFA(指導) 16. GP(指導) 17. HFA、GP(課題) 	<ol style="list-style-type: none"> 18. レンズの立て方(指導)、HFA、GP(課題) 19. オクトパス(指導) 20. Amsler、Mチャート、中心暗点計(指導) 21. 実技まとめ 22-23. 輝度調整、レンズ準備、 立て方チェック 	
準備学習	予習・復習すること		
教科書・教材等	視能学 視能矯正学 理解を深めよう視力検査屈折検査 検査ガイド理解を深めよう視力検査視野検査		
授業の形式 教育機器の活用	視力表 色覚検査 視野検査GP・AP		
成績評価の方法	出席点25% 課題レポート点50% 実技試験(輝度調整)25点		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>視覚生理学で必要な様々な検査実習を行います。まず手順や方法を覚えることから始まりますが、手順が頭に入っているだけでは、検査はうまくいきません。理論を知り、結果と相関が取れているかなど考えながら行えるようになりましょう。どんどん質問してもらおうとコツや問題点を伝えやすいので、積極的に取り組んでください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	心理学	担 当 教 官 名	宮江真矢・鳥嶋勝博 他
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ホスピタリティ、ライフケアカラー、カラーユニバーサルデザイン、障害者の心理		
授業の概要 及び到達目標	<p>心理学は様々な視点から人のことを理解し実践につなげる学問である。そのため、本授業ではあらゆる人と関わったり、行動していく上で基礎となる知識を扱う。下記に示す到達目標を定めて授業を進める。</p> <p>①心理学の基本的知識を基に、人間の発達や一般的な傾向と個人差について様々な視点から理解できる。</p> <p>②本授業での学びとこれまでの個人的経験や社会事象も合わせて考えることで、自己理解や他者理解を深めることができる。</p> <p>③ホスピタリティーの視点から人間関係や患者様への対応を考えることができる。</p> <p>④ライフケアカラーとカラーユニバーサルデザインを学ぶことで、色の効果を社会福祉に役立てるノウハウを身に付ける。</p>		
講義計画・内容	<p>1. - 6. ホスピタリティについて 7. - 10. 発達や心理学の基礎、障害・疾病の理解 11. - 12. ライフケアカラー 13. - 14. ユニバーサルデザイン 15. まとめ</p>		
準備学習	<p>講義後に授業で配布したプリントや資料を用いて復習をすること。 授業外でも自身や他者、社会について広く関心を持ち心理学的態度や視点を養うこと。</p>		
教科書・教材等	<p>特に指定していない。講義ごとに資料を配布。</p>		
授業の形式 教育機器の活用	<p>配布資料による講義形式・個人ワーク・ペアワーク・グループワーク・発表など</p>		
成績評価の方法	<p>出席率重視 ただし、講義や授業内でのワーク、課題への参加状況が芳しくない場合は出席したとみなさない</p>		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>心理学ではこれまで気づいていなかった自分自身の考えに気づけるかもしれません。自分を知ることは他者を理解することに繋がります。講義を通して自分にも人にも優しくなれるたくさんの知識を身につけてもらいたいと思っています。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	英語	担 当 教 官 名	山崎 絵馬
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	基礎英語力の向上		
授業の概要 及び到達目標	英語で書かれた教科書や学術的な内容の読み物で頻出する語彙に慣れ親しみ、 英文で書かれた専門性の高い読み物であっても、その内容の要点が理解できる ようになる。また、題目を要約するかつ英語で明解に、分かり易く発表できるよう になる。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Chapter 1 Baby Talk① 3. Chapter 1 Baby Talk② 4. Chapter 2 Face Reading① 5. Chapter 2 Face Reading② 6. Chapter 3 A Language for Women Only① 7. Chapter 3 A Language for Women Only② 8. これまでの復習 9. Chapter 7 A Life with Numbers① 10. Chapter 7 A Life with Numbers② 11. Chapter 8 The Geometry of Beauty① 12. Chapter 8 The Geometry of Beauty② 13. 総復習 14. 本試験 15. 試験返却、解説 		
準備学習	TOPIC PREVIEW、VOCABULARY PREVIEWのページで、その章の読み物の主題につい て、また使用される単語について予習を行う。		
教科書・教材等	Read This! 1		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	解剖学Ⅱ	担当教官名	北野 富美雄
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	神経系 感覚系 内分泌系 骨系 筋肉系の機能と構造		
授業の概要 及び到達目標	<p>1. 授業の概要 神経系 感覚器系、内分泌系 骨系、筋肉系の解剖、機能について講義する。</p> <p>2. 到達目的 解剖学は医学の基礎であり、幅広い知識と基礎課程の習得によって、次のステップアップである専門課程が理解できる。他の医療関係者と緊密な連携を図り、チームワークの一員としてチーム医療に参画できる。</p> <p>3. 実務者経験:25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務。 臨床薬剤師(入院患者対象 内科 外科 脳神経外科 整形外科病棟)に従事。 院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用の報告 情報提供。 他職種(医師 看護師 視能訓練士 言語聴覚士 作業療法士)研修会での薬品情報提供(新薬 副作用 禁忌 注意点 等)</p>		
講義計画・内容	<p>1. 神経系Ⅰ 中枢神経、脊髄、脳幹、間脳、小脳の機能と構造</p> <p>2. 神経系Ⅱ 末梢神経 体性神経系、自律神経系、脊髄神経、脳神経の機能と構造</p> <p>3. 感覚器Ⅰ 聴覚と平衡覚 外耳、内耳の構造 嗅覚、嗅覚伝導路</p> <p>4. 感覚器Ⅱ 味覚、皮膚の感覚 表皮、真皮、皮下組織の機能と構造</p> <p>5. 内分泌Ⅰ 視床下部 下垂体下部 甲状腺、副甲状腺の構造と機能</p> <p>6. 内分泌Ⅱ 副腎皮質 副腎髄質 性腺の機能と構造</p> <p>7. 1～6回までのまとめ</p> <p>8. 骨系Ⅰ 骨の形態と機能、組成 脊柱 頭蓋骨などの機能と構造</p> <p>9. 骨系Ⅱ 上肢の骨 上肢帯 自由上肢 胸鎖 肩鎖 手指関節などの機能構造</p> <p>10. 骨系Ⅲ 下肢の骨 下肢帯 自由下肢 骨盤などの機能と構造</p> <p>11. 筋肉系Ⅰ 筋肉収縮のメカニズム 心筋 骨格筋などの機能と構造</p> <p>12. 筋肉系Ⅱ 頭部の筋肉 咀嚼筋 表情筋 頸</p> <p>13. 筋肉系Ⅲ 上肢の筋肉などの機能と構造</p> <p>14. 筋肉系Ⅳ 下肢の筋肉 腹部の筋肉などの機能と構造</p> <p>15. 解剖学Ⅱ 本試験実施と解答・解説</p>		
準備学習	講義の前後につながりがあるので前回の復習と、次回するところは予習してほしい		
教科書・教材等	からだの地図帳(講談社)、解剖学ハンドブック(ナツメ社) 入門人体解剖学 第5版 (南江堂)		
授業の形式 教育機器の活用	講義と問題演習		
成績評価の方法	本試験で60点以上を合格とする。59点以下で再試験を行う		
担当教官から (履修に当たって留意点)	授業に関して学生に期待すること わからない点があればわかるまで質問してほしい。講義は、勉強に集中してほしい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分	基礎分野
授業科目名	物理学	担当教官名	山部 長兵衛
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	電磁波、反射、屈折、スネルの式、分散、回折、干渉、偏光、球面鏡、球面レンズ、パーゼンスの式		
授業の概要 及び到達目標	<p>光の反射、屈折、回折、干渉についてその性質や関係する式を理解する。</p> <p>また、球面鏡や球面レンズの特性を理解し、結像の作図などができる。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目：はじめに。計算の基礎演習。縦波と横波、電磁波について。 反射の法則(正反射と乱反射)。屈折と分散(1)。物質の屈折率。全反射。</p> <p>2回目：計算の基礎演習。屈折と分散(2)、回折、干渉、偏光の各現象。</p> <p>3回目：計算の基礎演習。球面鏡と球面レンズ(1)。</p> <p>4回目：計算の基礎演習。球面鏡と球面レンズ(2)。</p> <p>5回目：計算の基礎演習。専門基礎への導入(1)(演習)。</p> <p>6回目：計算の基礎演習。専門基礎への導入(2) (参考資料)「眼鏡処方に必要な基礎光学」 (MB OCULISTA No.23, pp.110 (2015))。</p> <p>7回目：第1回～6回までのまとめ、および総合演習。</p> <p>8回目：期末試験(60分)と解説(30分)。</p>		
準備学習	中学数学レベルを十分に理解しておく		
教科書・教材等	教材は原則毎回プリント資料を用意する。		
授業の形式 教育機器の活用	対面授業(原則、PCおよびプロジェクターを使用する。場合によってはオンライン授業の形態もある。)		
成績評価の方法	期末試験と平常点(理解度チェック・課題・演習、授業への集中度等)の総計で総合評価する。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	授業への集中力を高める。授業の復習に努めてほしい。質問はいつでも歓迎します。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画（シラバス）

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	情報科学	担当教官名	中嶋 園子
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	Office系の代表的なアプリケーションソフトの習得		
授業の概要 及び到達目標	<p>パソコンの基本的な操作(キーボードによるタイピング、マウス操作)等に慣れ、Word、Excel、PowerPointなど、Office系の代表的なアプリケーションソフトの基礎的な操作方法を習得する。 それらのソフトの個々の用途を理解すると共に、それらのソフトを連携させてより効率的に活用できることを理解する。 具体的には、テーマを設定し収集したデータのExcelによる表、グラフ、データベース化、Wordによるレポート作成、PowerPointによるプレゼンテーション等々</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Word基礎 画面構成、文書作成、印刷 2. Word基礎 グラフィック機能の利用 3. Word基礎 表作成 4. Excel基礎 画面構成、データ入力 5. Excel基礎 数式の入力、関数の入力 6. Excel基礎 表の罫線、書式設定 7. Excel基礎 グラフ作成 8. Excel基礎 データベース(Word&Excel課題発表) 9. Word、Excelの連携、レポート作成の基本 10. PowerPoint 画面構成、スライドの作成(Word&Exc課題提出) 11. PowerPoint プレゼンテーションの実行(PowerPoint課題発表) 12. PowerPoint まとめ 13. PowerPoint プレゼンテーション発表(PowerPoint課題提出) 14. PowerPoint プレゼンテーション発表 15. 総復習 		
準備学習	<p>パソコンに機会があれば触れておいてほしい。 また目まぐるしく進化するITの動向に、関心を持っておいてほしい。</p>		
教科書・教材等	よくわかるWord2021 & Excel2021 & PowerPoint2021 FOM出版		
授業の形式 教育機器の活用	コンピュータ教室でパソコン使用		
成績評価の方法	課題(Word&Excel、PowerPoint)とプレゼンテーション発表		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>最近の学生はスマートフォン、タブレットの操作は熟達しているが、パソコン操作(キーボードによるタイピング、マウス操作など)は不慣れな学生が増えている。なるべくパソコンに触れる機会を増やして操作に慣れるようにして欲しい。 また両者は操作性だけでなく、通信、アプリの扱い、保存などついてかなりの違いがあるので、この授業を通じてその点もしっかりと理解してもらいたい。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	生理光学Ⅱ	担当教官名	中島 かおり
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	屈折異常、屈折矯正、調節、調節異常、		
授業の概要 及び到達目標	<p>生理光学Ⅱでは、各屈折異常の分類や原因、治療法、調節およびその異常、屈折矯正に用いる眼鏡レンズが及ぼす影響について学習する。</p> <p>本講義では以下を到達目標として設定する。 ①各屈折異常の症状や治療法について説明できる。 ②調節力を計算にて求めることができる。 ③矯正レンズが及ぼす影響について説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 眼の軸と角度、模型眼、収差 2. 屈折異常各論 近視(1) 3. 屈折異常各論 近視(2) 4. 屈折異常各論 遠視 5. 屈折異常各論 乱視 6-9. 調節およびその異常、調節力の計算(1)~(4) 10. 調節まとめ 11-13. 眼鏡とCL(1)~(3) 14. まとめ 15. 本試験、解説 		
準備学習	前期で受講した生理光学Ⅰの復習をしておくこと。		
教科書・教材等	視能学 第3版、屈折異常とその矯正 第7版、生理光学ドリルⅠ・Ⅱ、プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パワーポイント使用)		
成績評価の方法	本試験 80点 + 小テスト 20点		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>屈折検査および屈折矯正についての知識を習得することは、視能訓練士において必須となります。</p> <p>各屈折異常について学ぶことでそれぞれに異なる見え方を理解し、屈折矯正によりどのような効果が得られるかを考えられるようになってください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	眼疾病学 I	担当教官名	黒川 歳雄
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	眼疾患の基礎		
授業の概要 及び到達目標	眼科領域の代表的疾患(臨床でよく見る疾患)を容易なレベルで解剖学や生物学、検査と繋げて学習する。今後、臨床的評価を行っていく上でのベースとなる知識を身につけることを目標とする。		
講義計画・内容	眼の解剖 眼瞼疾患 眼瞼の炎症(麦粒腫、霰粒腫、アレルギー等) 涙器疾患 ドライアイ 結膜疾患 ウイルス感染症(アデノウイルス等) 角膜疾患 円錐角膜 水晶体疾患 白内障 緑内障 ぶどう膜炎全般 ぶどう膜疾患 Behçet 病 原田病 網膜硝子体疾患(1) 網膜剥離 黄斑疾患 網膜硝子体疾患(2) 網膜循環障害 網膜色素変性症 視神経疾患 視神経炎・視神経症 期末試験 試験解説		
準備学習	前期で学んだ視器の解剖について復習しておく		
教科書・教材等	『現代の眼科学』、『目でみる眼疾患』		
授業の形式 教育機器の活用	講義主体(疾患に伴う自覚的・他覚的变化を知るための検査実習を織り交ぜる)		
成績評価の方法	本試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	受け身ではなく能動的に学ぶ姿勢を期待する。単に知識を詰め込むのではなく臨床現場に立つことを想定して使える知識を身につけていって頂きたい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	視器の解剖生理病理学Ⅱ	担当教官名	中島 かおり
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	脳と神経、眼球運動、瞳孔運動、視路と視野		
授業の概要 及び到達目標	<p>視器の解剖生理病理Ⅱでは視覚に関する脳と神経の構造を理解した上で、眼球運動や瞳孔運動のしくみ、視路と視野の関係について学習する。</p> <p>本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①視覚に関する脳と神経の構造を理解し、説明できる。 ②眼球運動・瞳孔運動のしくみを理解し、説明できる。 ③視路と視野の関係について理解し、説明できる。 ④瞳孔・眼球運動の異常、視野の異常パターンを理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系/神経の構造、中枢神経と末梢神経、大脳 2. 中枢神経系/大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳 3. 中枢神経系/大脳皮質の構造、機能局在① 4. 中枢神経系/機能局在②、willisの大脳動脈輪 5. 末梢神経系/自律神経系 6. 末梢神経/12脳神経① 7. 末梢神経/12脳神経② 8. 中間試験と解説 9. 眼球運動① 10. 眼球運動② 11. 瞳孔運動 12. 視路と視野① 13. 視路と視野② 14. まとめ 15. 本試験と解説 		
準備学習	毎回復習し、前回の授業内容を理解した上で授業に臨むこと。		
教科書・教材等	視能学【第3版】文光堂、病気がみえるvol.7 脳・神経【第2版】メディックメディア、プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パワーポイント使用。プリントに沿って進行する。)		
成績評価の方法	中間試験(30%)、本試験(70%)の合計100点(60点以上合格)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>視器の解剖生理病理Ⅱでは脳と神経について学習し、更に眼球運動や瞳孔運動、視路と視野について学習します。これらを理解をすることではじめて、患者様の症状の原因となる異常が、目、脳、神経のどこにあるのか判断することができます。難しく思う事もあるかもしれませんが、諦めずに粘り強く学習してください。しっかり理解すれば、必ず実際の臨床現場であなたを助けてくれる知識になります。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	生物学II	担当教官名	都留 浩子
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	細胞の増殖 生殖 ガン 発生 組織 器官系 神経系 生体調節 内分泌系 免疫系		
授業の概要 及び到達目標	<p>この授業では、前期「生物学I」・後期「生物学II」を通して、生物学の中でも特に、生命科学分野について学ぶ。この分野は医学を学ぶ者には不可欠の知識であり、可能な限り広く深く理解することが望ましい。後期の生物学IIでは、多細胞生物であるヒトの特徴について学ぶ。細胞の増殖と死、個体の増殖である発生、身体を構成する組織・器官系の概要を対象とする。器官系のうち、神経系・内分泌系・免疫系については詳しく学ぶ。生物学IIの分野では臨床応用が目覚ましい。iPS細胞やガンなど最先端の話題に触れながら、発展の流れを理解できるようにしたいと考えている。</p> <p>到達目標は以下の通り。 個体としてのヒトに関する生命科学の基本知識を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 7章細胞の増殖と死①細胞周期・ガン 2. 7章細胞の増殖と死②体細胞分裂・細胞死 3. 8章生殖・発生①減数分裂・配偶子形成 4. 8章生殖・発生②分化・iPS細胞・ミトコンドリア遺伝 5. 8章生殖・発生③発生の基本型・ヒトの発生 6. 9・10章動物の組織と器官 7. 12章神経系①神経の構造・神経伝導 8. 12章神経系②神経伝達・神経伝達物質 9. 11章生体調節①自律神経・内分泌系 10. 11章生体調節②シグナル伝達 11. 13章免疫系①免疫とは・自然免疫・獲得免疫・免疫寛容 12. 13章免疫系②生体防御のしくみ・免疫に関わる諸現象 13. 14章ヒトに関わる微生物 真核微生物・細菌・ウイルス 14. まとめ 15. 試験・解説 		
準備学習	<p>事前にテキストを読むなどの予習を行うこと。また授業終了後は丁寧な復習を行うこと。復習の成果については、次回授業の始めに小テストを行い、確認する。</p>		
教科書・教材等	『医療・看護系のための生物学 改訂版』 田村隆明著 裳華房		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	本試験80%、小テスト及び平常点の評価20%とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>生命科学では、概念をきちんと理解することが大切です。板書をノートに写すだけでなく、書いた内容がもれなく理解できているようにしましょう。わからないところがあれば、どんどん質問してください。また、ノートだけの学習で終わらず、教科書も読み慣れて、学術用語や特有の言い回しなどにもなじむようにしましょう。高校生物の内容と重なるところも多々ありますので、難しく感じるときは、高校生物の参考書などに戻ってみてください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視能訓練学(斜視各型)	担当教官名	小沢眼科内科病院・視能訓練士 高橋慎也 川野辺徹 野田信吾 川松彩夏 本山奈々
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	基礎的な斜視の発生機序と判断基準		
授業の概要 及び到達目標	<p>視能訓練学(斜視各型)では臨床で遭遇することの多い基礎的な斜視について学習する。</p> <p>本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。 ①斜視の発生機序を理解し、所見から斜視の型を判断できる。 ②各斜視に対する治療法が理解できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外眼筋の説明・発生と分類／両眼視の獲得について 2. 斜視の検査の種類..内斜視: 先天内斜視 3. 内斜視: 後天内斜視(基礎型内斜視・周期内斜視・急性内斜視) 4. 内斜視: 後天内斜視(感覚性内斜視)／調節性内斜視(屈折性調節性内斜視) 5. 内斜視: 調節性内斜視(部分調節性内斜視・非屈折性調節性内斜視) 6. 内斜視: 調節性内斜視(非調節性輻湊過多型内斜視) 7. 偽内斜視／内斜視と外斜視の合併／眼振阻止症候群 8. 確認テスト 9. 外斜視: 間欠性外斜視 10. 外斜視: 恒常性外斜視／続発外斜視(術後外斜視・感覚性外斜視) 11. 交代性上斜位.上下斜視(共同性上下斜視・上下筋過動)／偽上斜視 12. 回旋斜視 / A-V型斜視 13. 斜視の手術 / 微小斜視 14. まとめ 15. 本試験と解説 		
準備学習	指定した教科書の次回授業部分を事前に読んで予習しておくこと。		
教科書・教材等	視能学【第2版】文光堂, 視能矯正学【改訂版第3版】金原出版, プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パワーポイント使用。プリントに沿って進行する。)		
成績評価の方法	本試験 100点(60点以上合格)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	視能訓練学(斜視各型)で学ぶ内容は、視能訓練士として臨床に立つ上で欠かすことのできないものです。毎回復習して着実に知識を習得していくようにして下さい。はじめのうちは難しく思うことがあるかもしれませんが、根気強く取り組む事で次第に総合的に考えられるようになります。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	精神衛生(公衆衛生学)	担 当 教 官 名	杉山 文枝
対象学生	第一学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	公衆衛生、予防医学、感染症対策		
授業の概要 及び到達目標	<p>公衆衛生学は社会医学領域に含まれる一分野で、社会のなかで医学の機能を客観的にとらえた上で、医学と社会を不断に連結する役割を果たしています。従って、疫学、統計学、社会学、政治経済学を土台にして、広い視野で集団を対象に治療・予防・健康をとらえる学問といえます。つまり、より多くの人々の幸福のために、個々の患者だけではなく、多くの人々の健康と予防を支援する制度や事業を対象とする学問です。</p> <p>本授業では、人口・生活・医療・社会・自然などの環境の実態を示しながら、保健予防事業と医療制度等、医学が社会とかわる諸領域の講義を行う予定です。そして、公衆衛生活動の様々な実践活動について理解し、人々の健康を守るための組織、機関および医療従事者の役割や機能への理解を深めます。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目 オリエンテーション、ガイダンス 公衆衛生学とは(公衆衛生学の定義、健康の定義、予防医学の概念、社会保障制度と公衆衛生)</p> <p>2回目 種々の保健統計とその意義</p> <p>3回目 疫学概論(疫学とはどのような学問か、疫学の歴史、疫学的なアプローチ)</p> <p>4回目 健康と疾病の概念、疾病予防、健康増進へのアプローチ</p> <p>5回目 医療制度(医療保障、医療保険、高齢者医療制度、公費負担医療、介護保険、国民医療費)</p> <p>6回目 感染症とその予防(感染と感染症、感染症の予防、感染症法、主要な感染症)</p> <p>7回目 食品保健と栄養(食品衛生管理、食品の安全、食中毒対策、国民の栄養)</p> <p>8回目 生活環境の保全(物理・化学的環境、地球環境問題とその対策、生活環境の安全)</p> <p>9回目 地域保健活動(保健所・市町村保健センターの機能、保健・医療従事者、救急医療)</p> <p>10回目 母子保健(母子保健の歴史、母子保健関連の統計、母子保健サービス)</p> <p>11回目 学校保健(学校保健制度の歴史と関係法令そしてその対象、感染症と予防、学校安全)</p> <p>12回目 生活習慣病対策、健康教育とヘルスプロモーション</p> <p>13回目 精神保健(精神医療の歴史、精神障がい者の福祉)、産業保健(労働衛生管理、職業性疾患)</p> <p>14回目 定期試験に向けての総括と復習</p> <p>15回目 試験と解説</p>		
準備学習	<p>公衆衛生学は社会情勢と連動します。現在、社会でどのような事が問題となっているかを知るために新聞やニュースに関心を持ち、情報を収集してください。社会の動きを知ること、学習する公衆衛生学の理解が深まり、そして公衆衛生的思考が涵養されます。</p>		
教科書・教材等	<p>わかりやすい公衆衛生学(ヌーヴェルヒロカワ,2009年12月25日第1刷第3版清水忠彦,佐藤 拓代 編)</p> <p>講義時に配布するサマリー・プリントならびに資料</p>		
授業の形式 教育機器の活用	<p>講義、プリント、パワーポイント、視聴覚教材</p>		
成績評価の方法	<p>試験のみ</p>		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>現代は、公衆衛生学、予防医学の時代です。人間集団をとりまく環境の健康への影響から疾病予防、地域や社会全体の健康増進に至るまで幅広い知識を身につけ健康を守るための人間の組織的な活動のあり方を医療職候補の一員として学んでください。保健・医療・福祉を科学的そして総合的に学習していきますので、社会情勢を把握することも必要になります。新聞に目を通し、またニュースなどをよく見るようにしてください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視覚生理学Ⅱ	担当教官名	石阪 ひとみ
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	視野 光覚		
授業の概要 及び到達目標	<p>視覚生理学は(形態覚(視力)・色覚・光覚・視野)は視覚を知る上で極めて重要な分野であり、視能訓練士として習得することは必須である。 視覚生理学Ⅱでは主に視野の基礎知識をつけ、理論を理解し、検査に結び付けられるよう講義を進める。</p> <p>到達目標 ①視野を理解し、理論に基づいて視野検査方法が理解できる。 ②視野検査の種類と特徴を知ることによって検査の選択ができる。 ③視野検査を評価できる</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視野の概念 GPとAP 2. GP 輝度調整 3. HFA 入力方法、眼瞼挙上、アイパッチ 4. 網膜神経線維と視野 5. HFA測定方法 6. GP測定方法 7. HFAの原理・解析 8. 視野検査に影響する因子、レンズ加入 9. オクトパス 10. Amsler、Mチャート、中心暗点計 11. 視野異常の種類 12. 視路と視野 13. 視路と視野のこり 14. まとめ 15. 後期本試験 		
準備学習	予習・復習すること		
教科書・教材等	視能学 視能矯正学 理解を深めよう視力検査視野検査		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プリント GP AP アムスラー Mチャート 中心暗点計		
成績評価の方法	本試験 80% 小テスト20%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>視野検査は臨床で行う機会が多く、視野の知識は欠かせません。 本講義では、視野検査からわかることや検査の種類や特徴を、実際の視野検査をしながらお伝えし、興味を持ってもらえるような授業にしたいと思っています。臨床につながる大事な内容ですので、積極的に取り組んでください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	生理学	担当教官名	北野 富美雄
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	体液 内分泌 神経・運動系 感覚系 呼吸 循環 腎機能		
授業の概要 及び到達目標	<p>1. 授業の概要 生理学においては生体、器官の機能について講義する。</p> <p>2. 到達目的 生理学は医学の基礎であり、幅広い知識と基礎課程の修得によって、次のステップアップである専門課程が理解できる。他の医療関係者と緊密な連携を図り、チームワークの一員としてチーム医療に参画できる。</p> <p>3. 実務者経験:25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務。 臨床薬剤師(入院患者対象 内科 外科 脳神経外科 整形外科病棟)に従事。 院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用の報告 情報提供。 他職種(医師 看護師 視能訓練士 言語聴覚士 作業療法士)研修会での薬品情報提供(新薬 副作用 注意点等)</p>		
講義計画・内容	<p>1. 体液と血液Ⅰ 体液の組成、血液の成分、血球の種類、血液、血球の機能</p> <p>2. 体液と血液Ⅱ 凝固機能、凝固因子、線溶機能、血液型、輸血 免疫組織 機能</p> <p>3. 内分泌Ⅰ 視床下部、下垂体前葉 後葉、甲状腺、副甲状腺</p> <p>4. 内分泌Ⅱ 副腎皮質(球状 束状 網状) 髄質ホルモンなどの作用</p> <p>5. 1～4回までのまとめ</p> <p>6. 神経系 自律神経系(交感 副交感)、脳神経、脊髄神経の機能</p> <p>7. 運動と筋 筋収縮 筋肉の種類 構造、筋収縮エネルギー</p> <p>8. 6～7回までのまとめ</p> <p>9. 呼吸機能 換気機能、ガス交換、肺気量 拘束性 閉塞性換気障害</p> <p>10. 腎機能 尿の生成、尿細管の再吸収、クリアランス 浸透圧 PH 腎不全</p> <p>11. 循環 心臓 血液循環の機能、血圧調節、血圧に関するホルモン</p> <p>12. 9～11回までのまとめ</p> <p>13. 細胞の構造 細胞内の物質、 体温、基礎代謝、熱産生、体温調節</p> <p>14. 栄養と代謝 各種栄養素 カロリー 呼吸商</p> <p>15. 生理学Ⅱ 本試験実施と解答・解説</p>		
準備学習	講義の前後につながりがあるので前回の復習と、次回するところは予習してほしい		
教科書・教材等	「イラストで学ぶ生理学」第3版 田中越郎 医学書院 ORT国家試験過去問題		
授業の形式 教育機器の活用	講義と問題演習		
成績評価の方法	本試験で60点以上を合格とする。59点以下は再試験を実施する		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	授業に関して学生に期待すること わからない点があればわかるまで質問してほしい。 講義中は勉強に集中してほしい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視能訓練学(弱視)	担当教官名	金川 竜也
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	弱視 心因性視能障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>弱視の基本的知識と弱視の種類・特徴を学び、診断のための検査・治療の方法と注意点を知識として身につける</p> <p>①弱視の種類と特徴を説明できる ②弱視治療の目的と種類が説明できる ④弱視の種類に応じて治療プランが立てられる</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の視覚発達特性 2. 弱視各型① 3. 弱視各型② 4. 固視検査・光学的視能矯正 5. 遮閉法 6. 4△Base out test 7. 弱視訓練① 8. 弱視訓練② 9. 弱視訓練③ 10. 弱視治療の効果判定 11. 実習 (固視検査・4△Base out test・訓練機器) 12. 心因性視能障害 13. 症例検討 14. まとめ 15. 本試験 		
準備学習	授業の復習を必ず行うこと		
教科書・教材等	視能学【第3版】、視能矯正学【改定第3版】、プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プリント		
成績評価の方法	本試験80% 小テスト20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>弱視は視能訓練士にとって必要不可欠な知識であり、腕の見せ所です。患児の視能を的確に評価し、医師と協力して適切な治療や訓練計画を選択できるように基礎知識を身につけ、それを活かして臨床的に考えることのできる視能訓練士になってほしいと思います。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	眼疾病学Ⅱ	担 当 教 官 名	奥沢 淳治
対 象 学 生	2年生	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	眼疾患、検査、治療、前眼部		
授業の概要 及び到達目標	<p>新たな疾患、日常診療のなかで頻度の高い眼科疾患を主に、症状、所見を生じるメカニズムを理解し、検査法、治療法を思考力で導き出せるようにする。国家試験はもとより、将来就業した時に役立つ知識を生徒に学習していただきます。まずは各部位の構造と機能を学習する。それをふまえた上で、各部位に生じる疾患について理解を深める。眼疾病学Ⅱでは主に前眼部(眼瞼・涙器・角膜・結膜)の疾患について学習する。単に疾患名を暗記するのではなく、疾患の原因・病態を理解し、それに基づいて必要な検査や治療を推察できるようにすることを目標とします。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 眼球の構造と生理 3. 前眼部 4. 眼瞼、眼窩 5. 涙器 6. 結膜 7. 角膜1 8. 角膜2 9. 強膜 10. ぶどう膜1 11. ぶどう膜2 12. 硝子体 13. 復習1 14. 復習2 15. 試験解説 		
準備学習	1年生で一通り学習しているので、しっかりと復習しておくことが望ましい		
教科書・教材等	現代の眼科学、目で見える眼疾患		
授業の形式 教育機器の活用	パワーポイントによるスライド提示		
成績評価の方法	本試験100点満点で評価する		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>眼疾病学は国家試験においても、また就職後の実際の臨床の現場でもとても大切な知識になります。単に覚えるのではなく、各疾患について病態がイメージ出来るように、心がけてください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視覚障害学	担当教官名	黒川歳雄 他
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	視覚障害患者の視機能評価、残存視機能の活用、QOVの向上		
授業の概要 及び到達目標	<p>視覚障害学は患者の視機能を理解し、視生活上のサポートを行っていくための学問で、視能訓練士にとって習得することは必須である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①視覚障害患者の視機能を評価／把握することができる。 ②残存視機能を活用するための補助具を選定することができる。 ③QOVを高めていくためのサポートを行うことができるようになる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロービジョン概要 2. 視覚障害とQOL 3. 視機能評価(視力障害) 4. 視機能評価(視野障害) 5. ニーズの把握 6. レンズ倍率の考え方 7. 手持ち式拡大鏡 8. 卓上式拡大鏡と単眼鏡 9. 拡大読書器 10-11. 遮光眼鏡 12-13. 日常生活支援と障害認定 14. テスト復習と補足事項(歩行介助) 15. 本試験 		
準備学習	基礎視覚障害学をよく復習しておくこと。		
教科書・教材等	あたらしいロービジョンケア		
授業の形式 教育機器の活用	講義・実習 視覚補助のための機器利用		
成績評価の方法	本試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>視覚障害学を理解するうえでまずはロービジョンスピリッツを持ってもらい、障害のある患者さんの助けとなる道具や情報を提供できるようになることを狙いとしている。本講義では国家試験に対応するための知識にとどまらず、臨床の場に立ったことを想定して積極的に授業に参加してもらいたいと考えている。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視能検査演習Ⅱ	担当教官名	金川 竜也
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	23回
授業のキーワード	眼球運動 両眼視機能検査		
授業の概要 及び到達目標	斜視検査Ⅱで学んだ検査を実施できるよう技術を身につける ①検査の原理と特徴を理解しながら検査ができる ②適切な検査説明ができる ③患者の見え方を想像しながら検査ができる ④得られた結果から両眼視機能や眼球運動を評価することができる		
講義計画・内容	1・2・3・4:立体視検査 5・6・7・8:網膜対応検査 9・10・11・12:大型弱視鏡 13・14・15・16:HESS・両眼注視野 17:18:19:20:眼球運動検査 21・22・23:まとめ		
準備学習	斜視検査Ⅱで学んだ検査についての復習		
教科書・教材等	視能学【第3版】、視能矯正学【改定第3版】、斜視検査Ⅱの授業プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実技		
成績評価の方法	出席率40%(一回欠席ごとに5点減点)、レポート60%もしくは実技テスト60%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	斜視や網膜対応の検査の多くは患者の見え方を想像しながら行う検査になります。そのため、検査技術はもちろん、コミュニケーション能力も必要となってきます。さらに検査をより臨機応変に使いこなすためには検査を原理から理解しておくことが非常に重要です。難しく感じるかもしれませんが、コツコツと取り組んでいきましょう！		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	斜視検査Ⅱ	担当教官名	金川 竜也
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	眼球運動 両眼視機能検査		
授業の概要 及び到達目標	<p>斜視の検査の中でも眼球運動や両眼視機能の検査の種類・特徴を学び、検査を実施する際の知識として身につける</p> <p>①両眼視機能について検査ごとの特徴を理解し、説明できる</p> <p>②眼球運動検査について検査ごとの特徴を理解し、説明できる</p> <p>③検査結果より患者の両眼視機能や眼球運動について評価することができる</p>		
講義計画・内容	<p>1:復習(眼球運動・両眼視機能)</p> <p>2:立体視検査</p> <p>3:網膜対応検査①</p> <p>4:網膜対応検査②</p> <p>5:大型弱視鏡①</p> <p>6:大型弱視鏡②</p> <p>7:HESS赤線試験</p> <p>8:複像検査・両眼注視野検査</p> <p>9:眼球運動検査①</p> <p>10:眼球運動検査②</p> <p>11:Prism Adaptation test</p> <p>12:立体視計算</p> <p>13:まとめ</p> <p>14:まとめ</p> <p>15:テスト</p>		
準備学習	外眼筋の作用方向・両眼視機能の理解。授業の復習を必ず行うこと		
教科書・教材等	視能学【第3版】、視能矯正学【改定第3版】、できる！斜視検査、プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	本試験80% 小テスト20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>斜視を理解するためには両眼視機能や眼球運動に関する知識が必須です。視能訓練士はそれらを評価するための検査方法に関して熟知しておく必要があります。なんとなくやり方は分かっているから検査できる、のではなく、きちんと検査の原理や特徴を理解しながら実施することが臨機応変な対応へつながります。技術は知識の上に成り立つものなので、しっかりと知識をつけていきましょう！</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	生理光学Ⅳ	担当教官名	秀野 良児・林 則次・近藤 正己
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	<p>本講義は、「眼鏡(めがね)」に関する知識の習得及び、検影法のスキル習得の二部構成で行う。到達目標を以下に示す。</p> <p>① 視力矯正の重要な手段である「眼鏡」の知識を習得し眼科勤務において、患者さんに適切な眼鏡のアドバイスができる。</p> <p>② 検影法(レチノスコープ)の原理・理論を理解し、実際の眼の(他覚的)屈折値を求めることができる。</p> <p>実務経験 秀野 良児:1989年(株)三城(現㈱パリミキ)に入社し、眼鏡販売業務に従事。1997年より眼鏡学校WOCにて眼鏡教育業務を兼務、現在に至る。 林 則次:1979年(株)三城(現㈱パリミキ)に入社し、眼鏡販売業務に従事。1992年より眼鏡学校WOCにて眼鏡教育業務を兼務。2021年8月よりWOC特任講師として勤務、現在に至る。 近藤正己:1978年(株)三城(現㈱パリミキ)に入社し、眼鏡販売業務に従事。1989年より眼鏡学校WOCにて眼鏡教育業務を兼務。2020年11月よりWOC特任講師として勤務、現在に至る。</p>		
講義計画・内容	眼鏡(めがね)関係 1. 眼鏡フレーム 3. 眼鏡レンズ 5. 成人の単焦点眼鏡 7. 眼鏡のフィッティング 9. 近用(老視)眼鏡 11. 遠近両用眼鏡(等)① 13. 遠近両用眼鏡(等)② 15. 試験	検影法 2. レチノスコープの基本的操作 4. 模擬眼を使い(近視、遠視)屈折測定 6. 模擬眼を使い(乱視眼)屈折測定 8. 理解度確認(実技 & 筆記) 10. 実際の眼の測定① 12. 実際の眼の測定② 14. 実技試験①と解説 16. 実技試験②	
準備学習	「眼鏡」に関する講義は、毎回小テストを行うので間違えたところを復習しておくこと。 「検影法」は、実際に活用できる技術を目指すので、毎回の授業後理解不足があると感じる場合、練習し次の授業までにできるようにしておくこと。		
教科書・教材等	「目で見る 視力・屈折検査の進め方」・レチノスコープ、PPTなど		
授業の形式 教育機器の活用	眼鏡に関する授業は、講義が中心。検影法は、実習が中心(実習室にて)講義(実習)は、全て実習室にて行う。 ほぼ、全ての授業で、プロジェクター(PPT)を使用。		
成績評価の方法	毎回の理解度確認:30% 総合筆記試験:30% 検影法実技試験:40%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	眼鏡は、将来眼科に就職してから毎日触れることになる重要な視力矯正用具です。様々な眼鏡の特徴や快適な度数決定の方法を理解して臨床に役立つ知識を習得しましょう。 オートレフが発達した現在でも、検影法による他覚的屈折検査ができることは、大変重要なことです。国家試験のためだけでなく実際に活用できるようにしっかり学習しましょう。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	文章表現	担当教官名	古賀武彦
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	「書く力」・・・履歴書でしっかり自己PRを！！		
授業の概要 及び到達目標	「正しい日本語の使い方」を学び、レポートや作文、手紙や履歴書などの“実務文”を中心に、講義やグループワークを通して、主体的に学習する習慣を身につける。		
講義計画・内容	<p>1回目:「文章を書いて自己表現すること」・・・その目的と方法 2回目:「文章の書き方の基本」・・・自己紹介文を書く 3回目:「文章表現の基本」・・・体裁・表記のルール 4回目:「句読点の打ち方」「段落の付け方」・・・文体 5回目:「日本語表現のブラッシュアップ①」・・・敬語(丁寧語) 6回目:「フィールドワーク」・・・ユニーク看板で文章解説にトライ 7回目:「履歴書の書き方①」・・・自己PR文を軸に考える 8回目:「添え状の書き方」・・・手紙文の練習 9回目:「日本語表現のブラッシュアップ②」・・・俳句にチャレンジ 10回目:「履歴書の書き方②」・・・志望動機を軸に考える 11回目:「日本語表現のブラッシュアップ③」・・・敬語(謙讓語・尊敬語) 12回目:「日本語表現のブラッシュアップ④」・・・間違えやすい漢字・四字熟語 13回目:「日本語表現のブラッシュアップ⑤」・・・間違えやすい慣用句・ことわざ 14回目:「日本語表現のブラッシュアップ⑥」・・・間違えやすい日本語 15回目:※本試験実施(試験60分+解答解説30分)・・・評価観点・採点基準通知</p>		
準備学習	ワークシートや提示した資料を中心に復習に重点を置く。		
教科書・教材等	教科書は使用しない。教材としてワークシート・資料等を適宜配付する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式(適宜質疑応答を交えて発問を促し、理解の深化を図る。)		
成績評価の方法	定期試験70% 平常点30%(出席率・課題提出率・試験結果等を基に総合的に評価する)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>原則、毎回「課題」を提示する。 ☆読み手を意識した書き手になるための練習が大事。自分の考えを整理し、文章にして簡潔に表現できるようになる！</p> <p>■授業中の私語、携帯電話、中途入退室、課題提出ルールの無視は、消極的な学習姿勢の表れと判断し、評価対象とするので、積極的な取り組みを期待する。 ※次の事項についてのルールを初回授業時に伝える。 ・授業中の姿勢に関する留意点/時間どおりに授業を始め、時間どおりに終わる方針 ・資料配布のルール/課題提出のルール/成績評価の観点についての説明 等</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	医用光学機器	担 当 教 官 名	黒川 歳雄
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	眼科検査、視機能評価、画像解析検査、数値の読み方		
授業の概要 及び到達目標	<p>医用光学機器は患者の視機能を正確に評価し、診断に必要なデータを採取していくための講義である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①患者の視機能を評価／把握することができる。 ②疾患を診断するためのデータを提供することができる。 ③治療成績を評価し患者の視生活をサポートしていくことができる。</p>		
講義計画・内容	<p>眼底イメージング 眼底カメラと光干渉断層計の撮り方見方 緑内障と眼圧 眼圧検査実習 眼瞼の検査 眼瞼下垂の評価実習 眼軸長測定と超音波検査 Aモード・IOLマスター測定実習 超音波Bモード検査 エコー実習 電気生理学検査 ERG検査実習 瞳孔疾患とその検査法 瞳孔検査実習 本試験 試験の解説・その他の検査</p>		
準備学習	学んだ後に各自、実技の実習を行い、一つ一つ確実に技術を習得すること。		
教科書・教材等	視能学 第2版、眼科検査ガイド 第2版、うまい眼底画像を撮るためのテクニック		
授業の形式 教育機器の活用	講義・実習 視機能評価のための光学機器利用		
成績評価の方法	本試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	医用光学機器検査を理解するために眼疾患に対する知識を確かなものとする。検査機器の特性を一つ一つ学び正確な検査データが出せるようになるべく実践の臨床をイメージして授業に積極的に取り組んでもらいたい。本講義では国家試験に対応するための知識だけでなく、臨床現場で使える知識も伝えていきたいと考えている。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	医用光学機器演習	担当教官名	川上 真吾
対象学生	2年生	履修学期	通年
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	23回
授業のキーワード	精度・読影		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>各種機器の基本的操作・撮影技術・撮影画像の解析(読影)の習得。 臨床において、検査時に困ることなくDrより信頼される人材となる。 斜視、弱視、眼球運動、両眼視機能、解剖の倫理と実際を基に、検査の全てを実習し検査できるようになる。</p>		
授業の概要	<p>講義にて各種機器の説明を行い、習熟を目指し実習を行う。 講義は、基本的に教科書に沿ってパワーポイントで説明し、症例写真や症例結果を提示して行う。 講義では、できるだけ実習を行い、知識と技術の習得に努める。 実技試験を定期的に行い、技術と知識の習得の確認を行う。</p> <p>①-②散瞳、無散瞳カメラ ⑬-⑭散瞳カメラでの撮影 ③-④眼底写真の読影 ⑮ 中間試験 ⑤-⑥スベキュラ ⑯-⑰A・B-schan ⑦-⑧造影検査(FA/IA) ⑱-⑲眼圧、ヘルテル ⑨-⑩OCT ⑳-㉑想定しての各種測定 ⑪-⑫散瞳カメラでの撮影 ㉒まとめ ⑬-⑭散瞳カメラでの撮影 ㉓ 本試験 ⑮ 中間試験</p>		
授業内容のレベル	国家試験合格		
教科書・教材等	視能学第2版、眼科検査ガイド第2版、OCTの撮り方と所見の読み方		
授業の形式、視聴覚機器の活用	パワーポイント		
成績評価の方法	課題提出(20)+中間試験(40)+本試験(40)		
担当教官から			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	生理光学 Ⅲ	担 当 教 官 名	添 田 浩 生
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	物体と像、プリズム、眼鏡とCL、調節力		
授業の概要 及び到達目標	<p>生理光学Ⅲでは、視能訓練士国家試験で出題される生理光学分野の問題について復習、学習する。 本講義では以下を到達目標として設定する。</p> <p>①プリズムによる光学的矯正に関する計算ができる。 ②矯正レンズが視覚に及ぼす影響を計算してもとめることができる。 ③物理学における生理光学分野の計算ができる。</p>		
講義計画・内容	<p>(1)プリズム① プリズムと偏角など (2)プリズム② プリズム効果 (3)プリズム③ プリズム合成・分解プリズム (4)プリズムまとめ (5)面屈折力、反射鏡 (6)屈折、反射の法則、反射率など (7)物体と像① バージェンスなど (8)物体と像② 倍率など (9)眼鏡とCL① 眼鏡⇄CL (10)眼鏡とCL② VDずれによる補正 (11)眼鏡とCL③ みかけの調節力、眼鏡倍率 (12)調節力① (13)調節力②、検影法 (14)まとめ (15)後期本試験</p>		
準備学習	数学、物理学の復習が必要となる。		
教科書・教材等	視能学 第2版、生理光学ドリル 基礎編/Ⅱ、配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義 毎授業、パワーポイントを用いる。		
成績評価の方法	確認テスト 30点、本試験 70点		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>計算に苦手意識を持っている人は多いと思いますが、反復して問題を解くことにより、克服できるものばかりです。 国家試験のみならず、臨床でも多く使用する計算もありますので確実に習得しましょう。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	生理光学演習 II	担 当 教 官 名	添 田 浩 生
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	23回
授業のキーワード	自覚的屈折検査、角膜形状解析、調節検査		
授業の概要 及び到達目標	<p>生理光学演習IIでは、臨床で必須となる自覚的屈折検査をはじめ、角膜形状解析検査や調節検査など屈折、調節の評価に必要な検査の理論および実技について学習する。本講義では以下を到達目標として設定する。</p> <p>①クロスシリンダーを用いた自覚的屈折値の測定ができる。 ②角膜形状解析装置を用いた角膜形状の撮影および評価ができる。 ③近見屈折矯正および調節検査における調節力の測定および評価ができる。</p>		
講義計画・内容	<p>(1)オリエンテーション、自覚的屈折検査(乱視表) (2)～(4)自覚的屈折検査(乱視表) (5)(6)近見屈折矯正 (7)レンズメータ (8)～(16)自覚的屈折検査(クロスシリンダー) (17)～(19)角膜形状解析、自覚的屈折検査(クロスシリンダー) (20)(21)調節検査、不等像検査 (22)まとめ (23)本試験・解説</p>		
準備学習	講義で学んだ実技について、空き時間などを用いて自主的に復習すること。		
教科書・教材等	視能学、理解を深めよう視力検査 屈折検査、眼科検査ガイド		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パワーポイントを用いる、実習 実習室にて機器を用いて各検査の実技		
成績評価の方法	出席点 30点、課題 40点、本試験 30点		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>授業内のみでなく、空き時間を用いて数多くの練習をするようにしましょう。 各検査においてスモールステップを設定し、まずは手順を確実に習得、その後に技術の向上を目指しましょう。 検査結果のアーチファクトについて知り、対処法も理解しましょう。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	神経眼科学	担 当 教 官 名	佐野 洋一郎
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	16回
授業のキーワード	眼球運動、瞳孔、視路、視野		
授業の概要 及び到達目標	脳幹の構造を把握する。眼球運動や視機能に関与する脳神経核の位置および神経の走行を理解する。それらをふまえた上で、瞳孔の異常や眼球運動の異常、視野の異常について学習する。具体的な疾患での異常のパターンを、その機序も含めて理解する。これらの知識は、実際の臨床現場で検査を行う上で役立つものと思われる。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳幹の構造と眼に関係する脳神経 2. 自律神経 3. 瞳孔、対光反応 4. 瞳孔の異常 5. 眼球運動 6. 核上性眼球運動障害1 7. 核上性眼球運動障害2 8. 動眼神経麻痺 9. 滑車神経・外転神経麻痺 10. 全眼筋麻痺 11. 筋原性麻痺 12. その他眼球運動障害 13. Duane症候群 14. 眼振 15. 復習、16. 試験解説 		
準備学習	あらかじめ講義の範囲を教科書や資料で予習しておくことが望ましい		
教科書・教材等	神経眼科、視能学		
授業の形式 教育機器の活用	パワーポイントによるスライド提示		
成績評価の方法	本試験100点満点で評価する(講義ごとに小テストを行う可能性あり)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	神経眼科学は国家試験においても、また就職後の実際の臨床の現場でもとても大切な知識になります。単に覚えるのではなく、各疾患に対する自分のイメージが持てるように理解することを心がけてください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	眼光学特別講義	担当教官名	石阪 ひとみ
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	コンタクトレンズ処方		
授業の概要 及び到達目標	コンタクトレンズケアについて学ぶ。コンタクトレンズの処方や扱いについて学び、患者に適切に指導ができるようになる。		
講義計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ① コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ② コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ③ コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ④ コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ⑤ コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ⑥ コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ⑦ コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ⑧ コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ⑨ コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ⑩ コンタクトレンズ基礎研修(メニコン) ⑪ 医療用コンタクトレンズ処方基礎(サンコンタクトレンズ) ⑫ 医療用コンタクトレンズ処方基礎(サンコンタクトレンズ) ⑬ 医療用コンタクトレンズ処方基礎(サンコンタクトレンズ) ⑭ 医療用コンタクトレンズ処方基礎(サンコンタクトレンズ) ⑮ コンタクトレンズ用洗浄液、保存液について(オフテクス) 		
準備学習	基礎的内容を復習しておく		
教科書・教材等	プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義・実習		
成績評価の方法	出席		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視覚生理学演習Ⅱ	担当教官名	石阪 ひとみ
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	23回
授業のキーワード	異常視野と疾患 光覚・暗順応検査 電気生理学		
授業の概要 及び到達目標	<p>視覚生理学の最後の項目「光覚」基礎知識をつけ、理論を理解し、検査に結び付けられるよう講義を進める。 視覚生理学Ⅱで学習した視野の理解をもとに、疾患による視野異常の機序を知り、異常視野測定の実習を行う。 電気生理学では、検査方法・対象疾患・結果の見方を講義する。</p> <p>到達目標</p> <p>①疾患と視野異常を結び付けることができる。 ②異常視野の測定ができる ③種々の電気生理検査の特徴を知り、選択でき、評価できる。 ④光覚を知識をもって、暗順応検査評価ができる。</p>		
講義計画・内容	1-2. 正常視野測定復習 異常視野測定のポイント ノーマル視野実習 3-4. 視路と視野異常 半盲実習 5-6. 色変と視野異常 輪状暗点、求心狭窄、 測定ポイントと実習 7-8. 緑内障と視野異常 9. FDT(説明・実習) 10-11. 視神経疾患と視野 測定ポイントと実習 12. CFF(説明・実習) 13-14. 心因性と視野 平面視野計等紹介 注視野 HFA(エスターマン)	15. 光覚とは 16. 暗順応検査 17. 電気生理(ERG) 18. 電気生理(ERG、VEP) 19. 電気生理(EOG～EMG) 20. 実技総復習 21. 実技総復習 22. まとめ 23. 後期本試験	
準備学習	毎回前回授業内容から小テストを出題するので、復習を必ず行うこと。授業内だけの実習では上達しませんので、自主的に空いた時間を利用し実技練習を行うようにしてください。		
教科書・教材等	視能学 理解を深めよう視野検査 検査ガイド		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プリント GP AP CFF		
成績評価の方法	本試験70% 課題 20% 小テスト 10%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	視野に関しては、正常視野の理解があつてはじめて異常視野も測定できます。視野とはどのようなものかを再度伝えつつ、異常視野測定の方法や手技を伝えていきたいと思っています。光覚や電気生理学は実習の部分が少ないので、想像が付きにくいと思いますが、参考資料や教員の経験を講義中にお伝えすることで、臨床をイメージできるようにしたいと考えています。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	特別講義 I	担当教官名	石阪 ひとみ
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	最先端の眼科医療領域について基礎的な内容を学ぶ。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 眼科におけるコンタクトレンズ診療 ② 色覚異常1 ③ 色覚異常2 ④ ロービジョン ⑤ コンタクトレンズ処方1 ⑥ コンタクトレンズ処方2 ⑦ コンタクトレンズ処方3 ⑧ コンタクトレンズ処方4 ⑨ コンタクトレンズ処方5 ⑩ コンタクトレンズ処方6 ⑪ 眼鏡とレンズ1 ⑫ 眼鏡とレンズ2 ⑬ 眼鏡とレンズ3 ⑭ 斜視・弱視の訓練 ⑮ 斜視・弱視の訓練 ⑯ 症例報告の基礎 		
準備学習	予習・復習しておく		
教科書・教材等	プリント、視能学、現代の眼科学、眼科検査ガイド		
授業の形式 教育機器の活用	パソコン、プロジェクターを使用しての講義、実習		
成績評価の方法	出席数による		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	総合演習Ⅱ	担当教官名	石坂 ひとみ
対象学生	2年生	履修学期	通年
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	23回
授業のキーワード	学内実習 共同作業		
授業の目標及び期待される学習効果	<ul style="list-style-type: none"> ①様々な世代とのコミュニケーション力の向上 ②自主的な行動と協調性の獲得 ③ホスピタリティ精神の構築 ④見学実習で3年次の臨地実習および卒後のイメージをつける ⑤臨地実習、就職活動に向けての準備 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.医健祭に向けて 3.医健祭に向けての実技練習 4.医健祭に向けての実技練習 5.6医健祭に向けての実技練習 7.8医健祭 9.10関西盲導犬協会施設見学 11.12.13.14保育実習 ボランティア 高齢者検査 15.16スポーツ大会 17.18.東海光学工場見学 19.20.21報告会準備 22.23 報告会 		
授業内容のレベル	各個人の到達目標により様々		
教科書・教材等	なし		
授業の形式、視聴覚機器の活用	必要に応じてプリント等の配布		
成績評価の方法	出席、取り組む姿勢等の総合評価		
担当教官から			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	英語Ⅱ	担 当 教 官 名	山崎 絵馬
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	基礎英語力の向上		
授業の概要 及び到達目標	英語で書かれた教科書や学術的な内容の読み物で頻出する語彙に慣れ親しみ、 英文で書かれた専門性の高い読み物であっても、その内容の要点が理解できるようになる。また、題目を要約するかつ英語で明解に、分かり易く発表できるようになる。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter 9 Math and Music: What's the Connection?① 2. Chapter 9 Math and Music: What's the Connection?② 3. Chapter 10 Accidental Inventions① 4. Chapter 10 Accidental Inventions② 5. Chapter 12 The Queen of Trash① 6. Chapter 12 The Queen of Tras② 7. Chapter 13 Amazing Achievements① 8. Chapter 13 Amazing Achievements② 9. Chapter 14 Almost the Father of Flight① 10. Chapter 14 Almost the Father of Flight② 11. Chapter 15 An Engineering Superstar① 12. Chapter 15 An Engineering Superstar① 13. 総復習 14. 本試験 15. 試験返却、解説 		
準備学習	TOPIC PREVIEW、VOCABULARY PREVIEWのページで、その章の読み物の主題について、また使用される単語について予習を行う。		
教科書・教材等	Read This! 1		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	眼科薬理学	担当教官名	北野 富美雄
対象学生	第2学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	眼科治療薬 眼科検査薬 機能訓練薬 の作用機序 副作用 禁忌 注意点		
授業の概要 及び到達目標	<p>1. 授業の概要 眼科薬理学は視能訓練士にとって必須である。機能訓練で使用する薬、検査薬、眼科治療薬の使用法、作用機序、副作用、使用禁忌について講義する。</p> <p>2. 到達目的 眼の解剖、眼の機能 眼疾患 薬剤機序のメカニズムなどの眼科薬理学の基礎分野を履修することによって①眼科治療薬、②眼科検査薬、③機能訓練薬が理解できる。将来、視能訓練士の業務に役立つことができる。日常業務において、他の職種と緊密な連携をばかり、チーム医療に参画できる。視能訓練士の国家試験の合格にも寄与できる。</p> <p>3. 実務者経験:25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務。 臨床薬剤師(入院患者対象 内科 外科 脳神経外科 整形外科病棟)に従事。 院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用の報告 情報提供。 他職種(医師 看護師 視能訓練士 言語聴覚士 作業療法士)研修会 薬品情報提供</p>		
講義計画・内容	<p>1. 眼の構造と薬物の吸収について 点眼剤の移行 自律神経 交感神経 副交感神経 アゴニスト アンタゴニスト</p> <p>2. 交感神経刺激剤 ジベペフリン フェニレフリン 作用機序 副作用 禁忌</p> <p>3. 交感神経遮断剤 α遮断剤 β遮断剤 $\alpha\beta$遮断剤 作用機序 禁忌</p> <p>4. 副交感神経刺激剤 ピロカルピン M受容体刺激剤 作用機序 副作用</p> <p>5. 副交感神経遮断剤 抗コリン剤 アトロピン シクロペントレート トロピカミド</p> <p>6. 重症筋無力症治療薬 PG製剤 交感刺激 副交感刺激 炭酸脱水酵素阻害剤 抗コリンエステラーゼ剤(ジスチグミン) ステロイド剤(プレドニゾロン)</p> <p>7. 局所麻酔剤 リドカイン オキシブプロカイン</p> <p>8. 角膜保護剤 ヒアルロン酸 コンドロイチン、ビタミン剤</p> <p>9. 抗炎症剤 NSAIDs(インドメタシン)、ステロイド剤</p> <p>10. アレルギー性眼疾患 抗アレルギー剤 ステロイド剤</p> <p>11. 加齢黄斑変性症 抗VEGF剤</p> <p>12. 白内障治療薬 グルタチオン。眼瞼痙攣 斜視 骨格筋弛緩剤 ボトックス</p> <p>13. 感染症 抗生物質 抗真菌剤 抗ウイルス剤</p> <p>14. 検査薬 瞳孔緊張症 ホルネル症候群 弱視治療 甲状腺眼症</p> <p>15. 眼科薬理学本試験 国家試験問題演習 総まとめ 実施、解答、解説</p>		
準備学習	講義の前後につながりがあるので前回の復習と、次回するところは予習してほしい		
教科書・教材等	視能学(第3版)文光堂 点眼薬(クリニカルブック)第2版 金原出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義と問題(視能訓練士国家試験の過去問題)演習		
成績評価の方法	本試験で60点以上を合格とする。59点以下は再試験を実施する		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>①臨床で役立つこと</p> <p>②国家試験合格</p> <p>①②を中心に行うので解らないところは遠慮なく、どんどん質問してほしい。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視能矯正学総合演習 I	担 当 教 官 名	中島 かおり
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	各分野の理解を深める		
授業の概要 及び到達目標	<p>これまでに修得してきた各分野(専門基礎分野・専門分野)の理解を深めるため、国家試験問題の基礎的な問題や演習を通して、まとめを行う。</p> <p>到達目標</p> <p>①得意な分野、苦手な分野を知ることで自分の課題を見つける。 ②理解を深めるための勉強方法を身につける。 ③より深く理解することにより応用力を身につける。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要 2. 練習問題(全範囲) 3. 解剖学・生理学 4. 視器の解剖生理・病理学 5-7. 疾病学(全身と眼) 8-11. 基礎視能矯正学 12. 視能検査学(生理光学・視覚生理学・医用光学機器) 13. 視覚障害学 14. 視能訓練学(弱視・斜視) 15. 本試験 		
準備学習	練習問題について理解を深める勉強を行い臨むこと		
教科書・教材等	視能学第3版, 視能矯正学第3版, 現代の眼科学第13版, 眼科検査ガイド第3版		
授業の形式 教育機器の活用	講義(スライド)		
成績評価の方法	本試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	これまでに学んできた分野を問題を解くことで、理解を深める講義です。自分の理解できている部分、できていない部分を知り、調べ学習をすることで苦手分野をなくしていくようにしていきましょう。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	眼疾病学Ⅲ	担 当 教 官 名	奥沢 淳治
対 象 学 生	2年生	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	眼疾患、検査、治療、後眼部		
授業の概要 及び到達目標	<p>新たな疾患、日常診療のなかで頻度の高い眼科疾患を主に、症状、所見を生じるメカニズムを理解し、検査法、治療法を思考力で導き出せるようにする。国家試験はもとより、将来就業した時に役立つ知識を生徒に学習していただきます。まずは各部位の構造と機能を学習する。それをふまえた上で、各部位に生じる疾患について理解を深める。眼疾病学Ⅲでは主に重要疾患、眼底(網膜、視神経)以降の疾患について学習する。単に疾患名を暗記するのではなく、疾患の原因・病態を理解し、それに基づいて必要な検査や治療を推察できるようになることを目標とします。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 網膜1 2. 網膜2 3. 水晶体1 4. 水晶体2 5. 緑内障1 6. 緑内障2 7. 視路疾患1 8. 視路疾患2 9. 視路疾患1 10. 両眼視機能 11. 眼球運動障害 12. 全身病と眼 13. 眼外傷 14. 復習 15. 試験解説 		
準備学習	1年生で一通り学習しているので、しっかりと復習しておくことが望ましい		
教科書・教材等	現代の眼科学、目で見える眼疾患		
授業の形式 教育機器の活用	パワーポイントによるスライド提示		
成績評価の方法	本試験100点満点で評価する		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>眼疾病学は国家試験においても、また就職後の実際の臨床の現場でもとても大切な知識になります。単に覚えるのではなく、各疾患について病態がイメージ出来るように、心がけてください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	全身疾病学	担 当 教 官 名	山脇 昌
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	分かりやすく、丁寧に、ゆっくりとをモットーに授業を行なう。		
授業の概要 及び到達目標	<p>高血圧症とその合併症、糖尿病など視機能に影響を与える全身性疾患を理解し、個々の疾患が視機能になぜ、どのような影響を及ぼすかを説明できるようになることを目標とする。その他視機能に重大な影響を与える疾患として腫瘍、遺伝疾患、自己免疫疾患、感染症、ビタミン欠乏症、神経障害、皮膚疾患、医原性眼疾患を取り上げる。直近では東京大学医学部で15年間、講師、准教授として教育・研究に携わり、満期退職後は現在まで京都医健専門学校で7年間 解剖学、一般臨床医学、国試対策授業に従事して授業、教育に豊富な経験を有している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1-3. 高血圧症と関連疾患(高血圧性網膜症、内頸動脈閉塞症、脳卒中など) 4-5. 糖尿病と合併症(糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、ニューロパチーなど) 6. 腫瘍(下垂体腫瘍、頭蓋咽頭腫、網膜芽細胞腫、白血病、悪性リンパ腫など) 7. 自己免疫疾患(SLE, 多発性硬化症、サルコイドーシスなど) 8. 感染症(風疹症候群、トキソプラズマなど) 9. 内分泌疾患(バセドー病、甲状腺眼症、クッシング症候群など) 10. 遺伝疾患(ダウン症候群、マルファン症候群、ウィルソン病など) 11. ビタミン欠乏症(ビタミンA欠乏症など) 12. 神経障害(動眼神経麻痺、顔面神経麻痺など) 13. 皮膚疾患(ベーチェット病など) 14. 医原性眼疾患(ステロイド緑内障など) 15. 試験 		
準備学習	復習を中心に行う。		
教科書・教材等	独自作成資料を中心に行う。現代の眼科学(金原出版)		
授業の形式 教育機器の活用	原則対面パワポ授業 新型コロナ感染状況によりMSチームズを使用した遠隔授業		
成績評価の方法	対面試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>高血圧、糖尿病は日本で患者数が最も多い疾患であり、しかも視機能に大きな影響を与える疾患でもあり、職場でも頻繁に出会うことが予想される疾患です。他にも視機能に影響を与える全身性疾患は多く、「木を見て山を見ず」ということがないように眼を通じて背景にある病態もわかるような視能訓練士を目指して欲しいと期待しております。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	基礎視能矯正学(眼科手術)	担 当 教 官 名	村木 早苗 他
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	斜視手術について学ぶ。斜視の手術に関しては、眼球運動、斜視の各型の理解を確認した上で、術式を理解することができる。		
講義計画・内容	1・2眼窩の解剖と眼球運動 3・4眼球運動障害について 5・6斜視の各型について 7・8斜視手術 9斜視の治療について(非観血的) 10試験 11試験解説		
準備学習	眼球運動、斜視各型について復習をして臨むこと。		
教科書・教材等	現代の眼科学第13版・視能学第2版・視能矯正学第3版・目で見る眼疾患		
授業の形式 教育機器の活用	パワーポイント、プリント		
成績評価の方法	本試験80%、出席20%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	小児眼科学	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	2年生	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	8回
授業のキーワード	小児について理解を深める		
授業の目標及び期待される学習効果	乳幼児・小児の発達、取り巻く疾患や社会情勢などを理解し、視能訓練士に必要な知識を学ぶ。		
授業の概要	<p>座学にてパワーポイントを使用し講義を行う。 適宜、他者と検討し合う時間を設け、気づきをしてもらう。</p> <p>①小児の成長と発達(概要) ②小児の成長と発達(乳幼児) ③小児の成長と発達(思春期) ④社会環境 ⑤小児に関する眼疾患 ⑥小児に関する眼疾患と検査 ⑦総合復習 ⑧本試験・解説</p>		
授業内容のレベル	国試合格を第一目標とする		
教科書・教材等	スライド		
授業の形式、視聴覚機器の活用	座学・パワーポイント		
成績評価の方法	本試験(発達:60点、眼疾患:40点 計100点)		
担当教官から	視能訓練士として小児に関わるが多々あります。小児の特性や疾患をしっかりと理解し、外来あるいは検診等で適切な検査、適切な対応ができるようになりましょう。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨地実習 I	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	315時間以上
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	<p>医療の現場における視能訓練士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動がとれる。患者様に対して、基本的な検査を体験し実施できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場において、社会人として相応しい態度、言葉遣いができる ・視能訓練士業務の内容や位置づけを把握できる ・患者様に対して適切な声掛けや手助けができる ・院内感染等、安全対策を理解し、実施できる ・指導者の管理の下、基本的な検査を安全に実施することができる ・実施した検査及び検査結果に関して、理論的な説明ができる ・患者様の症状、疾患について説明ができる ・教科書・文献を参考に必要な報告書を作成することができる 		
講義計画・内容	<p>期間 2023年5月8日～7月15日 計315時間(原則 1日7時間)</p>		
準備学習			
教科書・教材等			
授業の形式 教育機器の活用			
成績評価の方法	実習時間・臨地実習に関わる取り組み・実習評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨地実習Ⅱ	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	315時間以上
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	<p>臨地実習Ⅰの目標を含め、さらに以下の内容を到達目標とする。 臨地実習を通して視能訓練士としての自覚を高めることができる ・患者様の症状から適切な検査・訓練を選択することができる ・指導・実践によって検査及び訓練の技術を向上させることができる ・自己管理能力、生涯学習の態度を身に付けることができる</p>		
講義計画・内容	<p>臨地実習Ⅱ 2023年7月24日～9月30日 計315時間(原則1日7時間)</p>		
準備学習			
教科書・教材等			
授業の形式 教育機器の活用			
成績評価の方法	実習時間・臨地実習に関わる取り組み・実習評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視能矯正学総合演習Ⅳ	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	臨地実習に向けての取り組み		
授業の概要 及び到達目標	20週間に及ぶ臨地実習に向けて、現場で求められる力は何か、実習生としての心構え等を、実習指導者による講義を交えて、個々の目標を明確にし、これまで学んできた知識の再確認、検査の手技の見直しや向上を目指す。車いすの扱いについても修得し、現場で対応できる力を身に付ける。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション① 2. 実習オリエンテーション② 3. 実習オリエンテーション③ 4. 実技練習 5. 実習指導者による講義① 6-7. 車いす実習 8. 実習指導者による講義② 9. 実技練習 10. 検査演習(他学年測定①) 11-12. 実習指導者による講義③ 13. 実技練習 14. 検査演習(他学年測定②) 15. 臨地実習に向けた取り組みまとめ 		
準備学習	個々の課題としていることを明確にし、知識の整理をしておく		
教科書・教材等			
授業の形式 教育機器の活用	講義(スライド)・実習		
成績評価の方法	出席率(1回欠席につき8点減点)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	2年間修得してきた内容を踏まえ、臨床では何が求められるのかを知り、事前準備をする大切な授業です。臨地実習での学びが、十分吸収できるよう、基礎知識の確認と、基本的な検査の理解を深めるようにしましょう。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	症例検討	担 当 教 官 名	川上真吾/黒川歳雄/添田浩生
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	データ収集、考察、プレゼンテーション		
授業の概要 及び到達目標	<p>症例検討では、臨地実習において経験することのできた症例についてまとめることにより検査結果の評価や疾患の診断などについての理解を深める。 本講義では以下を到達目標として設定する。</p> <p>①症例検討に必要なデータ収集ができる。 ②症例データをまとめ、その症例について考察することができる。 ③まとめた症例データと考察を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.オリエンテーション 2.症例データの確認 3.症例レポートの提出、添削① 4.発表のまとめ方 5.症例レポートの提出、添削②、症例スライドの提出、添削① 6.症例スライドの提出、添削② 7.症例報告会 8.症例レポート、症例スライドの最終提出</p>		
準備学習	医学雑誌などに掲載されている論文をいくつか読んでおきましょう。		
教科書・教材等	配布プリント、症例検討に必要な文献を各自準備		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パワーポイントを用いる、面談 個別で添削を行う		
成績評価の方法	提出物(症例レポート、症例スライド)による評価、また提出を授業出席とみなす		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>症例について考察するにあたって、教科書的な内容は最低限おさえておきましょう。 実習で経験した症例と教科書の内容を照らし合わせ、臨床での検査や治療についての知識を深める良い機会としましょう。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	視能矯正学総合演習Ⅱ	担 当 教 官 名	川上 真吾
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	各分野の理解を深める		
授業の概要 及び到達目標	視能矯正学総合演習Ⅰの分野を含めたすべての分野を対象に、国家試験問題に準じた基礎・応用問題を解くための理解・知識の整理、関連付け、演習を行う。模擬試験による実力の把握をしながら、更なる知識の定着と理解ができるようになる。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視器の解剖・生理、関係法規 2. 視覚生理学 3. 生理光学 4. 小児眼科学・眼科薬理学 5. -7. 神経眼科学（模擬試験を含む） 8. -10. 視能矯正学総論（模擬試験を含む） 11. -13. 視能矯正学各論（模擬試験を含む） 14. 視覚障害学・臨床心理学 15. まとめ 		
準備学習	各分野の理解を深める勉強を行い臨むこと		
教科書・教材等	視能学第2版 視能矯正学第3版 現代の眼科学第13版 眼科検査ガイド第2版		
授業の形式 教育機器の活用	講義(スライド)		
成績評価の方法	模擬試験の受験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	確実な理解と知識を定着させるために、日々の勉強が大切です。自分の課題を見つけ、不明な点をなくすような勉強を行うよう心掛けてください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	医療倫理学	担当教官名	古賀 武彦
対象学生	第3学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	「命どう宝」・・・かけがえのない「いのち」に感謝し、「より善く生きる意味」を考えよう！！		
授業の概要 及び到達目標	医療倫理につながる基本的な倫理学を通して、“命を大切にし、人間を理解することの意義”について学ぶ。講義やグループワークを通して、医療従事者としての職業人の価値観をはじめ様々な価値観のあることを理解し、人間尊重の精神で他者と接することができる。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「いのちを考える①」・・・“医療”とは何か “倫理”とは何か 2. 「いのちを考える②」・・・“いのち”とは何か “死生観”を知る 3. 「医療倫理のキーワード」・・・基本的用語の意味を理解する 4. 「あなたならどうする？」・・・“倫理的思考”→判断基準と価値観 5. 「いのちを考える③」・・・“生命倫理”とは何か 6. 再考「医療とは何か？」・・・“先人の生き方”に学ぶ 7. 再考「倫理とは何か？」・・・“ヒューマニズムの精神”を学ぶ 8. 「いのちを考える⑤」・・・“生きることの意義”を考える 9. 医療現場での倫理① 10. 医療現場での倫理② 11. 医療現場での倫理③ 12. 医療現場での倫理④ 13. 福祉現場での医療倫理① 14. 福祉現場での医療倫理② 15. 本試験実施(試験60分+解答解説30分)・・・評価観点・採点基準通知 		
準備学習	ワークシートや提示した資料を中心に復習に重点を置く。		
教科書・教材等	教科書は使用しない。教材としてワークシート・資料等を適宜配付する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式(適宜質疑応答を交えて発問を促し、理解の深化を図る。)		
成績評価の方法	定期試験70% 平常点30%(出席率・課題提出率・試験結果等を基に総合的に評価する)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>原則、毎回「課題」を提示する。※課題の提出率を重視する。 ☆社会の実情に関心をもち、社会問題に関する自分の意見を整理して、文章にして簡潔に表現できるようになろう！</p> <p>■授業中の私語、携帯電話、中途入退室、課題提出ルールの無視は、消極的な学習姿勢の表れと判断し、評価対象とするので、積極的な取り組みを期待する。 ※次の事項についてのルールを初回授業時に伝える。 ・授業中の姿勢に関する留意点/時間どおりに授業を始め、時間どおりに終わる方針 ・資料配布のルール/課題提出のルール/成績評価の観点についての説明 等</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	社会福祉	担 当 教 官 名	宮江 真矢
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	社会福祉 社会保障 ソーシャルワーク		
授業の概要 及び到達目標	<p>1. 授業の概要 今日の日本の社会福祉制度は戦後に基盤が築かれ50年以上維持されてきた。しかし、21世紀を迎え、抜本的改革の時期を迎え社会福祉制度の基本的な枠組みが変わろうとしている。特にこれからは縦の関係だけでなく、医療・保健・福祉の横の連携が重要となってくる。そうした意味で視能訓練士が社会福祉分野を理解することは不可欠なことである。また、従来の社会福祉制度による施設中心の福祉サービスが見直され、生活の場を拠点重要性が強調されている。医療機関と在宅福祉のサービスとの連携を含めて、地域福祉について学ぶことも重要である。本講義では、社会福祉の基礎的な学びとソーシャルワーク技術を学ぶことを目的としている。</p> <p>2. 到達目標 ①現代社会における福祉問題について理解し、説明できる。 ②ソーシャルワーク技術の基本について理解し、説明できる。</p> <p><実務経験> 社会福祉士。2018年10月より京都精華大学学生相談室キャンパスソーシャルワーカーとして勤務している。ソーシャルワークを通して学生を取り巻く心理、福祉問題の解決を行っている。</p>		
講義計画・内容	<p>1. 社会福祉とは 日本における社会福祉施策の概要 2. 児童家庭福祉① 児童虐待問題と支援 DV被害者の支援 3. 司法福祉① 刑事司法手続き 4. 司法福祉② 更生保護制度 5. 社会保障制度① 社会保障制度の概要 6. 社会保障制度② 生活保護制度について 7. 社会保障制度③ 障害者福祉制度について 8. 社会保障制度④ 健康保険、年金について</p>		
準備学習	日頃から社会福祉関連のニュース等に触れておくこと。		
教科書・教材等	プリント資料適宜配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義 演習		
成績評価の方法	定期試験80% 平常点(出席率)20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	疾患や障害の他に、生活を不安定にさせる要因が多様であることを知り、それをどのように解決していくかを学ぶことは、医療現場で働く者にとっても、社会人としても重要なことだと考えています。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専 門 分 野
授業科目名	視能矯正学総合演習Ⅲ	担 当 教 官 名	川上 真吾
対象学生	第3学年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	各分野の理解を深める		
授業の概要 及び到達目標	視能矯正学総合演習Ⅱを踏まえ、視能訓練士に必要な理論の理解や、知識の定着を行う。模擬試験によりその確認を行い、資格取得に十分な実力を身に付けることができる。		
講義計画・内容	1-2. 基礎医学大要(視器の構造と機能) 3-5. 基礎視能矯正学 (視覚生理学、生理光学、両眼視機能と眼球運動、視能矯正の枠組み)(模擬試験を含む) 6-8. 視能検査学(眼科一般検査・眼科薬理学・眼科写真撮影・視能検査機器) 9-11. 視能障害学(眼疾病学・神経眼科学)(模擬試験を含む) 12-13. 視能訓練学(斜視・弱視・心因性視能障害・眼振)(模擬試験を含む) 14-15. 視覚機能の基礎 (社会と医療・医療安全対策・ロービジョン・視能心理学・眼科と基礎医学)(模擬試験を含む)		
準備学習	各分野の理解を深める勉強を行い臨むこと		
教科書・教材等	視能学第2版 視能矯正学第3版 現代の眼科学第13版 眼科検査ガイド第2版		
授業の形式 教育機器の活用	講義(スライド)		
成績評価の方法	模擬試験の受験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	これまで積み上げてきた知識と理解の完成を目指します。視能訓練士に必要な知識の習得を目指し、取り組んでください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	特別講義Ⅱ	担 当 教 官 名	川上 真吾
対象学生	3年生	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修・選択	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	最先端の眼科医療領域について発展的な内容を学ぶ。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 色覚異常 ② ロービジョン ③ 検影法 ④ 検影法 ⑤ 検影法 ⑥ コンタクトレンズ処方1 ⑦ コンタクトレンズ処方2 ⑧ コンタクトレンズ処方3 ⑨ コンタクトレンズ処方4 ⑩ 遮光眼鏡処方1 ⑪ 遮光眼鏡処方2 ⑫ 遮光眼鏡処方3 ⑬ 眼鏡とレンズ 臨床に向けて ⑭ 眼科検査復習 ⑮ 斜視・弱視の訓練復習 		
準備学習	予習・復習しておく		
教科書・教材等	プリント、視能学、現代の眼科学、眼科検査ガイド		
授業の形式 教育機器の活用	パソコン、プロジェクターを使用しての講義、実習		
成績評価の方法	出席数による		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			